

笑劇☆モンスタードリーム

作・演出 矢内文章

初演 2020年11月26日～12月3日
下北沢 小劇場「楽園」

登場人物

堺清人

黒木一

蟹又満男

池上あずさ

白樺雪江

浜中順二

古谷美保

水田麻鈴

前田かずき

刑事・総理大臣

配役

岡田篤弥

石塚義高

井上智之

菅原彩香

花美えりい

梶野稔

田中望美

本田宇蘭

岩堀なみき

矢内文章

スタッフ

作・演出

矢内文章

美術

寺田真理

宣伝美術

松田陽子

照明

若井道代 (ライティングユニオン)

音響

小林勇太 (T・C・O・C)

音楽

高崎真介

演出助手

岡村尚隆

制作

三國谷花 (舞台芸術創造機関SAI)

舞台監督

大刀佑介

プロデューサー

鈴木カズオ

企画・制作・主催

アトリエ・センターフオワード

とある警察署の取調室。

容疑者・堺清人（28歳）と刑事（40歳）が向かい合っていて、尋問の最中である。

堺清人、28歳。東京都八王子市出身、と。

はい、間違いありません。

：いや、間違いって。きみ、自分で自分の履歴書持ってきたんでしょ。
はい。

じゃ、間違いとかあるわけないよね、嘘でも書かない限り。嘘書いたの？

そんなことしません。

：最終学歴のこれ、「私立瑞穂の国高等学校」ってそんな大学あったか？

ありますよ。まあ、偏差値はあんまり高くないけど。

しかも中退。

レベルが合わなかったんですよ。やっぱ低すぎて。

きみが？

大学が、です。全部本当のことですよ。

ふーん。しかし、これよく持ってたな。珍しいよ、履歴書持って自首してくるやつ。

最近まで就活してましたから、バッグに入れてばなしで。

就活？ 28だろ？ 職歴、書いてないな。事件起こした工場の前は何かやってた？

刑事
清人
刑事
清人
刑事
清人
刑事
清人
刑事
清人
刑事
清人
刑事
清人
刑事
清人

清人

あ、一応、福祉関係の仕事を。

刑事

福祉関係？ 介護とか？

清人

はい。障害者施設で介護を担当していました。

刑事

なんで書かないの？

清人

いや、抹消したい記録っていうか…めっちゃめっちゃブラックな仕事だったんで。

刑事

ああ、介護は大変だろうなあ。

清人

大変とかそういう問題じゃないです。コミュニケーション取れませんでしたから。

刑事

え？

清人

重度障害者の施設だったので。

刑事

ああ…。

清人

あそこでよく考えましたよ。これが人なんだろうか？ これで生きてる意味あるんだろうかって。

刑事

意味、あるだろ。

清人

どうなんでしょうね…？ あ、工場でもそれは思いました。むしろ、それがあつたから決断でき

刑事

たつていうか。

清人

どういう意味？

刑事

ヒーローになるんだって。

清人

ヒーロー？

刑事

社会のお荷物。役立たずな奴らをクレンジングしておればヒーローになるんだって。実際、なり

刑事

ました、ヒーローに。

刑事

(溜息) 同僚を殺して？

清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事

(明るく) はい。だって、本当に役立たずでしたから。7人だぞ。

：刑事さん、一人より二人。二人より三人って、多ければ多いほど社会に貢献したってことじゃないですか。

はあ？

それがヒーローじゃないですか？

場面が重なる。

弁当工場のベルトコンベアーの音がして、食品衛生服に帽子、マスク姿の作業員たちが登場する。課長の黒木一(42歳)の合図で作業を始める。

ラインリーダーの池上あずさ(27歳)が最上流で容器に米を入れ、

隣の浜中順二(35歳)が調理された豚肉を乗せている。

その二人の間では白樺雪江(35歳)がいて米の分量を量ってあずさに渡し、肉の袋を開けて浜中に渡すという難しい作業をこなしている。

ライン中流で古谷美保(25歳)が緑のバランを一枚ずつ置き、

水田麻鈴(23歳)が漬物をよそっている。

ライン下流では職長の蟹又満男(50歳)が流れてくる弁当に異常がないか検品している。「豚生姜焼き弁当」。

黒木
雪江
あずさ
雪江
浜中
美保
麻鈴
蟹又

作業開始。

ごはんを200。

盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉4枚。

はがして乗せる。×4。

緑のバラン。バランバ、バンバンバン！

漬物。漬物。

検品、良し！。

黒木課長のところに男勝りなドライバー、前田かずき（25歳）がやってくる。

かずき
黒木
かずき
黒木
かずき
黒木

おはーす！

おお。ずいぶん早いな。ノルマできるの朝だぞ。

さーせん、道空いてたもんで。

とかなんとか言っちゃって。休憩室だろ？ いいよ、仮眠してて。

あざーす。（出ていく）

（皆に）ライセンスピード上がります！

ベルトコンベアーが速くなる。

皆、一連のセリフと動きを加速させながら続ける。

美保

緑のバラン、うわあああ、バランがバラバラ！

美保が落としたバランを拾い始め、ラインがストップしてしまう。

黒木

何やってんだ！ ノルマこなすまで帰れないぞ！

蟹又

すみません！ 今、穩便に済ませますから。ほら、みんな再開、再開。

麻鈴

美保さん、バランがまだバラバラです。

あずさ

新しいの使って！ 床に落ちたんだから。

蟹又

古谷さん、マニュアルどおりにね。

黒木

動かすぞ！ 作業開始。

皆、作業の姿勢でストップモーション。

刑事

工場の夜勤は夜8時から翌朝5時まで。そして7時50分に出勤してきた昼番の社員が大量の血痕を見つけて通報している。その間2時間50分。そしてお前の出頭は午後1時24分だから、現場からここまでの距離を考えても7時間はあった。…刺した後、彼らをどこに運んだんだ？

清人

刃渡り17センチの出刃包丁2本。サバイバルナイフ、刃渡り15センチ、一本。お前のバッグに血まみれで入っていた。

清人

そいつらで刺しました。刺すとすぐ切れが悪くなるって聞いてたから、立川のスーパーで買って

きておいて。

刑事 計画的だな。今、現場の血痕と照合している。ま、凶器に間違いはないだろうが…。

清人 凶器です。

刑事 7人だぞ。彼らをどうやって動かし、どこで処理したんだ？

清人 黙秘します。

刑事 お前、自首しに来たんだろ？ なぜ隠す？ いや、そもそもなぜ遺体を動かした？ かなりの重

清人 労働だがそこまでする必要があったということだろ？

刑事 迷惑かけたらダメじゃないですか。せつかくヒーローがクレンジングしたのに死体がたくさん転

清人 がつてたんじゃ、台無しですよ。まあ、そこは自己責任っていうことで。

刑事 どこに運んだ？

清人 黙秘します。

刑事 …。

清人 刑事さん。自分が役立たずだって思ったことありますか？

刑事 なに？

清人 辛いですよ、役立たずは役立たずで。だから解放してあげたんです。そういう意味では社会にと

刑事 つても、彼らにとってもヒーローだったことになりましたね、おれ。(笑う)

清人 役立たずだから殺したっていうのか？

刑事 クレンジングですよ。社会のお荷物として生きてるくらいなら、クレンジングしてあげたほうが

清人 いいんです。お互いにね。はい、論破！

刑事 …何の罪もない人たちだぞ。

清人

刑事

清人

刑事

清人

ああ、おれも最初はそうでしたよ。この人たちはいい人かもしれないなって。でも、生きてる価値っていうのはそういうことじゃないと思うんです。会社とか社会に文句ばかり言っていて、自分は何もしないなんて虫が良すぎますよ。
お前…。

あ、差別主義者だなんて決めつけしないでくださいよ。事件を単純化したら真相は見えないんじゃないですか？

容疑者の言うことか！
ともかく。おれだつて努力したんです。なんとかしようとしたんです。せつかく就職したんですから、張り切つて…。

清人が指を鳴らすと場面が変わる。

2
1
①

弁当工場の休憩室。

粘着シートのコロコロを持ったあずさの前に、麻鈴、美保、浜中、雪江が並び、衛生服の埃や塵を取ってもらっている。

あずさ

古谷さん、後ろの毛

美保

え、あ！

あずさ

あと10分で作業開始です。しっかりしまってくださいね。

美保

はい。

麻鈴

(スマホを見て) うわ、裕二くん活動停止だって…！

浜中

え、誰？

麻鈴

裕二くん。山下裕二、シャイニーズの。

雪江

あ、アイドルの…。

麻鈴

(遮って) げっ、相手、中学生かよ…。

あずさ

水田さん、スマホは置いてってね。

麻鈴

(棒で) はーい。

蟹又が急いで入ってくる。

あずさ

おはようございます。

蟹又

おはようございます。新人君見なかった？

あずさ

はい？

蟹又

新人君。今日からなんだけど。堺くんって男の子。

あずさ

いえ、こっちは。

蟹又

あれえ！？ じゃ、まだ来てないのかな…。

蟹又は急いで出ていく。

美保 夜勤でも、おはようという摩訶不思議。

麻鈴 は？

美保 おはようは、いつでも使えるマジックワード。字余り。

麻鈴 なにそれ？

美保 あ、ごめん。声に出た？ 脳内川柳なんだけど…。

麻鈴 今度は川柳？ 美保さん、この間まで空手に凝ってたじゃない。

美保 うん、通信教育でね。けっこう身に付いた、へへ。

麻鈴 どうでもいいけど、今日はライン止めないでよ。帰るの遅くなっちゃうんだから。

美保 あ、うん、ごめんね。

麻鈴 タルイなー。ね、浜中さん、工場の寮ってどんな感じですか？

浜中 なに、急に？

麻鈴 えー、住み心地どうかなーって。正社員じゃなくても入れるんですよ。

浜中 入りたいの？ 殺風景なワンルームだよ。家賃安いのは助かるけど。

麻鈴 やっぱ安いのか？

浜中 でも、契約終わったら出てかなきゃなんないよ。

麻鈴 再契約すればいいんでしょ？

浜中 それは工場次第でしょ。3か月ごとに住まいの心配するのけっこうしんどいよ。

麻鈴 そっかー。でも、これ以上働くのも嫌だし…。ああ、お金…。

美保 宿無しで、金無しだけどやる気も無し。
麻鈴 は！？
美保 ごめん！ また漏れてた？

黒木課長が入ってくる。

黒木 おはよー。

一同 おはようございます。

黒木 あれ、蟹又さんは？

あずさ 新人の方を探してます。

黒木 は？ まだ来てないの？ 出勤初日から遅刻するか？

あずさ 道に迷ったのかもしれないですね。

黒木 このご時世に道に迷うとかよっぽのだよ。住所わかればスマホがどこだって連れて行ってくれるじゃん。こりゃ、期待できないかもなあ。

蟹又が戻ってくる。

蟹又 あ、課長…！

黒木 まだ来ないの？

蟹又 そうなんですよ、どうしましょう…。

黒木 どうしましうって、蟹又さん、携帯に掛けてみた？
蟹又 はい、鳴るんですけど出てくれなくて。弱ったなあ…。
あずさ マナーモードとかですかね。
黒木 知らないよ、そんなこと。
蟹又 私、もう一回見てきます。(出ていく)
黒木 あーあ、来ないかもね。久しぶりの男だったから期待してたのになあ。
あずさ 課長。
黒木 え？ ああ、女がどうのってことじゃないけどさ。ねえ、浜中さんはどう？ もう慣れた？
浜中 ああ、おれ、もう半年ですから。
黒木 半年？ そんなになる？
浜中 はい。
黒木 へー。じゃ、半年も工場と寮を往復するだけの毎日？
浜中 (愛想笑いで) ははは…。
黒木 ま、人のこと言えないけどね、おれも…。
あずさ でも、私たちは勝ち組じゃないですか。
黒木 どうだかね。正社員ってただけだろ？ それだって工場の業績が悪くなったらどうなるか…。勝ち組とは言えないでしょ。
あずさ でも、世間的なランクとしては、まあ、中の下にはなるんじゃないですか？
黒木 はあ？ こんな小さな工場の正社員だよ。しかも夜勤担当って、どうよく見ても下の上ってところですよ。

あずさ

えー！ 下の上なんてひどいですよ。私、頑張りますから。

黒木 はいはい、よろしくね。

麻鈴 あのく、黒木課長。

黒木 はい？

麻鈴 私たちは…？

黒木 え？

麻鈴 その、ランクですか？ 世間的な。私たちは…？

黒木 そりゃ、下の……さ、時間だ。仕事仕事。

あずさ はい。皆さん、5分後に下の入口集合ね。

黒木とあずさは出ていく。

残った一同が沈黙しているなか、

美保

自らは、願ってやまない、世間並。

蟹又がスーツで決めた清人を連れて入ってくる。

蟹又

いましました！

清人

失礼します！

蟹又

もう、探しちゃったよ。まさかスーツで決めてくるとは思わないからさ。あれ、課長たちは？

浜中
蟹又

下に降りました。
えー、課長が紹介するって言ってたんだけどな、堺君のこと。あと五分か。(清人に) ちょっと待ってて。すぐ呼んでくるから。

蟹又は走って出ていく。
残された一同は所在なさげ。

清人

あの、初めまして。堺清人です。よろしくお願いします。

非正規社員たちが軽く会釈する。

清人

…。えっと、ぼくはこの辺りが地元で、この工場は昔から知ってました。そういうところで働けることになって、なんか、幸せです。…。えっと…

浜中

いいよ、もう。

清人

え？

浜中

どうせ課長が紹介するんでしょ？ 2度手間だし、いいよ。

清人

はあ…。

麻鈴

張り切ってるんですねえ。

清人

え？

美保

あは、そりゃ初出勤だもん。帰る頃には…。

雪江
浜中
清人
浜中
麻鈴
清人
美保
清人
美保
清人
美保
浜中
雪江
清人
浜中
一同

スーツ似合って：

(遮って) 弁当工場にスーツで出勤ってさ。

いや、やる気みせとこうと思ひまして。正社員候補ですから。
は？

正社員候補？

はい。すぐ正社員になります。

そうなんだ、ずるーい。

え、そういう契約なの？

契約っていうか、まあ、約束っていうか。

そう言われたってこと？

まあ：あの、皆さんは正社員の方たちなんですか？

(目が合ってしまった) え：っと、違います。

違うっていうのは：？

契約社員だよ。3か月ごとのね。

そ、そうです。

私もー。

わた：

ここに居るのはみんな契約社員。

：そうなんだー。じゃ、みんなおれより下ってことだ。よろしくね。
は！？

清人
一同

あ、でも大丈夫。おれ、そこら辺、謙虚なんですわ…。

蟹又が黒木とあずさを連れてくる。

蟹又

お待たせ！ あ、課長、こちらが堺君です。

黒木

えー、本当にスーツなの？ …きみ、着替え持つてる？

清人

え？

黒木

着替え。衛生服はあるけど、その下、スーツで作業するの？

蟹又

あ、こちら、黒木課長。

黒木

蟹又さん、衛生服出してやって。

あずさ

あ、私が…。

蟹又

いいよいいよ。(清人に)こちら、池上さん。(取りに行く)

黒木

ったく。きみ、堺君、作業内容聞いてるよね？

清人

まあ…。

黒木

そ。じゃ、自己責任だね。汚れるわけじゃないからいいよね？

清人

はい。

黒木

(手を叩いて皆に) はいはい、時間だよ。移動しましょう。

一同、出ていき始める。

蟹又が衛生服を持つてくる。

蟹又　これこれ。急いでこれ着て。スーツの上から。

清人　（受け取りながら）え！？

あずさ　上着は脱いだほうが。

蟹又　うん、上着は脱いで。ほら急いで。（脱がそうとする）

清人　はい。

蟹又　あー、衛生服、下に置かないで！

清人　は、はい。

あずさ　持つてますから。

蟹又　じゃ、（衛生服の）ズボンこっちに。

あずさ　はい。

黒木　ちよつとちよつと！　なんで二人掛かりなの。いい大人なんだから、堺君だつて。

あずさ　すみません。（と、距離を置く）

蟹又　でも、急がないと…。

黒木　結局上着も脱げてないじゃない。もういいよ。池上さん、着替えさせたら下に連れてきて。ほら、

蟹又　蟹又さんは作業前の消毒。行くよ。

蟹又　はい、それじゃ。

黒木と蟹又は出ていく。

清人があずさをじっと見ている。

あずさ

じゃあ着替えましょうか。

清人

はい。(着替えながら) あの、池上さん、でしたっけ？

あずさ

はい。

清人

社員さんですか？

あずさ

そうです。でも、皆さんと一緒に作業もしますよ。私は担当ラインの生産性を向上させるのが仕事なんです。

清人

なるほど。じゃ協力しますよ、ぼく。

あずさ

え？

清人

いや、つまりラインの成績が良くなれば池上さんは出世するってことですよね？

あずさ

出世っていうか…まあ、評価は上がりますけど。

清人

じゃあ、協力しますよ。全力で頑張ります。

あずさ

あ、ありがとうございます…。それ着たら、工場内に入るまでにキャップとマスクをお願いします。手袋は下の入口で使い捨てが配られます。

清人

わかりました。

あずさ

じゃ、行きましょうか。

清人

はい。よっしゃ、張り切りますよ！

あずさ

あ、あの…。

清人

はい？

あずさ 普通でいいですから。

清人 は？

あずさ そんなに張り切らなくて大丈夫です。別に難しい仕事じゃないですから。

清人 はあ…あ、油断させようとしてます？

あずさ はあ？

清人 やだなあ、ぼくが正社員候補だからって意識しないでください。別に池上さんの地位を脅かそう
つてわけじゃないんですから。

あずさ え…何？

清人 一緒に頑張りましょうよ。池上さんが有能なことは一目見てわかりました。

あずさ はあ…。

清人 いや、類友ってあるじゃないですか。わかるんですよ、おれ。

あずさ とにかく、難しい仕事じゃないですし、すぐ慣れますから。リラックスしてください。張り切り

過ぎて余計な事されたらかえって困りますから。

清人 わかりました。行きましょう！（張り切って出ていく）

あずさ 聞いてねえ…。（追いかけて出ていく）

2-1②

工場内。

ベルトコンベアーのところに並ぶ一同。
衛生服にキャップ、マスク、手袋という恰好。
黒木はコントロール室からマイクで指示を出す。

黒木
清人
じゃ、始めます。堺君、役割わかった？
はい！

あずさ
黒木
袋破って肉渡すだけだから。
じゃ、動かします。(ベルトコンベアーが動く) 作業開始。

流れ作業を始める。

雪江
ご飯を200。

あずさ
盛り付け均す。ひたすら均す。

清人
(袋をなかなか破けない) 豚肉、豚肉、豚肉、豚肉…。

ブザーが鳴り、ベルトコンベアーが止まる。

黒木
なにやってんの！？ どうした！？

清人
これ、破れないっす！

黒木
はあ！？

蟹又
清人
蟹又
黒木
雪江
あずさ
清人

(そばに来て) 上じゃなくて横。横ならどこでも破けるから。
横…。ああ!

(黒木に) 大丈夫です、お願いします!

動かしませう。(機械音) 作業開始。

ご飯を200。

盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉、豚肉、豚肉…。

ブザーが鳴りベルトコンベアーが止まる。

黒木

清人

蟹又

清人

蟹又

黒木

蟹又

麻鈴

清人

蟹又

おい! 大丈夫!?

いや、これ、破れないっす!

(そばに来て) 横だよ、横。

いや、横やっても手袋が滑って。

んなわけないでしょ、みんなやってるんだからこれで。(黒木に) すみません!

もう一回、ちゃんと教えて。残業長くなっちゃうよ。

はい!

ありあ。

え? これ、おれのせい?

気にしない、気にしない。ほら、ちよつと爪を立てるくらい指先に力をいれてやってみて。

清人
蟹又
あずさ
蟹又
清人
蟹又
黒木
雪江
あずさ
清人
浜中
美保
麻鈴
蟹又
雪江
あずさ
清人
浜中
美保
麻鈴

…。(やってみると簡単に破ける) あ…。
ね？ 簡単でしょ？ 簡単なんだから。
いくつか先にストックしましょうよ。
ああ、そうだよ。じゃ、もうひとつ先に破っておこうか。後が楽でしょ？
はい。(破く)
(黒木に) 準備できました、お願いします！
じゃ、動きます。(機械音) 作業開始。
ご飯を200。
盛り付け均す。ひたすら均す。
豚肉4枚。(渡したあとにガッツポーズ)
はがして乗せる。×4。
緑のバラン。バランバ、バンバンバン！
漬物。漬物。
検品、よし！。
ご飯を200。
盛り付け均す。ひたすら均す。
豚肉4枚。(渡したあとにガッツポーズ)
はがして乗せる。×4。
緑のバラン。バランバ、バンバンバン！
漬物。漬物。

蟹又
雪江
あずさ
清人
浜中
麻鈴

検品、良し！。

ご飯を200。

盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉、豚肉、豚肉…。

えー！！

ちよつと〜！

ブザーが鳴り、ベルトコンベアーが止まる。

何やってんだよ！

(そばに来て) どうしたの？

いや、ストック分なくなっちゃったんで。

え！？

出た！ 一から十までタイプ。

は？

待ってる間に次のを開けておけばいいでしょ？ 一から十まで説明しないとわからないんだね。

浜中君、そんな言い方しないで。君だって新人の時があつたでしょ？

おれ、初日からできましたよ。

そ、そうだったね…。でも、ま、穩便に、ね？

できないほうが珍しいんじゃないですか。

黒木
蟹又
清人
蟹又
浜中
清人
蟹又
浜中
蟹又
浜中

蟹又 浜中君…。

美保 あ、私できませんでした。

蟹又 いや、そういうことじゃなくて…。

麻鈴 大丈夫ですか、その人？ 私、残業あんまりできないんですけど。

蟹又 ああ、そうだよね。

あずさ ポジション代わりましようよ。手数の少ないところでやってもらいましょう。

蟹又 うん、そうだね。じゃ…：バランスやってもらおうか。古谷さん、肉の袋と代わってくれませんか？

美保 え、あ、はい…。

浜中 え、古谷さんも苦手なんじゃなかったっけ？

蟹又 ああ…。

美保 はい、でも…。

蟹又 できる？

麻鈴 美保さん

浜中 大丈夫なの？

美保 …：息苦しい、皆の視線が、重すぎて。ふ…。(座り込む)

麻鈴 美保さん！

蟹又 わかったわかった。わかりました。古谷さんは漬物やって。で、水田さん、肉の袋。

美保 はい。

麻鈴 え…。

蟹又 できるでしょ、水田さんなら。
麻鈴 できますけど、なんか、お漬物が簡単にできるみたいな扱いで納得いきません。
蟹又 そんなつもりないよ！
浜中 どれも簡単じゃん。
麻鈴 浜中さん、シー！ 思っても言わないで。あたしだってギリギリなんだから。
浜中 はいはい。
あずさ 水田さん、残業長くなっちゃうよ。
麻鈴 …は…い。(場所を代わる)
蟹又 うん、ありがとう、水田さん。古谷さんも。池上さん、ナイスアドバイス。
あずさ (無視して) 堺さん、こっち来てください。この緑のバランスを一枚ずつ、容器に置くだけです。
清人 いいですね？
あずさ なんか、さーせん。でも、あの袋…
蟹又 いいから！ 協力してくれるんじゃないの、私に？ それとも口先だけ？
清人 池上さん！
あずさ …さーせん。
蟹又 黒木課長、お願いします。
あずさ あ、ちよつと待って。(自分の場所に戻り) お願いします！ …課長…？
黒木は腕組みをして考え事をしている。

浜中

あ、やばい…。

麻鈴

嘘、誰、今度は…。

美保

えー…。

あずさ

大丈夫ですよ。集中して頑張りましょう。

蟹又

(ネコナデ声) 黒木課長、お願いします。

黒木

…じゃ、動かしまーす。(機械音) 作業開始。

雪江

ご飯を200。

あずさ

盛り付け均す。ひたすら均す。

麻鈴

豚肉4枚。

浜中

はがして乗せる。×4。

清人

緑の balan。 balanバ、バンバンバン…。

美保

漬物。漬物。

蟹又

検品、良し！。

一連の動作の繰り返しに黒木の声が重なる。

黒木

速度上がりまーす。

徐々に速度が上がり、皆の言葉はどんどん重なっていく。

途中から清人が作業を止めてしまい、蟹又が「検品、ダメ」と叫び続けることになる。

ブザーが鳴り、ベルトコンベアーが止まる。

黒木
なんなんだ、今度は！

黒木はたまらずラインの方に降りてくる。

黒木
おい、堺君！

蟹又
課長、ストップ！ 白線、白線！ お願いします、消毒が…。

黒木
ああ…。はいはい、落ち着きますよ。(深呼吸する)

蟹又
ああ！

黒木
何！？

蟹又
マスクをお願いします。

黒木
はいはい。(ポケットからマスクを出し、口に当てる) 君ねえ、堺君、何やってんの？
いきなり作業止めちゃってどういうつもり？

清人
さーせん。

黒木
いや、謝るのはいいからさ。理由を言ってよ、理由を。

清人
いや、さーせん。なんか…。

黒木
何？

清人
もうちよつとクリエイティブな人間なんですよね、おれ。

黒木
はあ！？

清人 いや、これ、この緑の balan? っていうんですか? これを一枚一枚置くだけじゃないですか。
黒木 だから?
清人 いや、おれがやる必要あるのかなって。いや、おれじゃなくても、これを毎晩、朝までつてよ
ぼど…。
黒木 それが仕事だろ!
麻鈴 あたしたち、毎晩やつてるんですけどー。
浜中 中二病かよ。
清人 けど、これは…。
あずさ 堺さん、あなたさつき、肉の袋できなかったじゃない。それなのに…
清人 そうですけど! でも、慣ればあんなの…。
あずさ あんなの!?
黒木 もういい! 堺君、今日はもういいよ、上がって。いや、日当は出すからさ。まあ、見学してい
つてもいいし、休憩室で寝てもいいし、帰ってもいいよ。
清人 え…。
黒木 で、明日の出勤までに態度を決めてよ。この仕事が嫌だったら辞めていいからさ。よく考えて。
蟹又 課長…。
黒木 大丈夫だよ、蟹又さん。昨日まで彼がいなくなっちゃってやってたんだから。
蟹又 そうですけど、まだ初日ですし。
黒木 初日だからでしょ。ああいうこと言ってたんだから考える時間をあげたんですよ。会社の歯車にな

蟹又
黒木

る気があるかどうかは自分で決めてもらわなきゃ始まらないでしょ。
おっしやる通りです…。

はい、じゃ、皆さん。昨日までのフォーメーションでいきましょう。持ち場について。

一同、持ち場に戻る。

と言っても、美保と麻鈴が元のバランと漬物に戻るだけ。

清人はその様子を見ている。

黒木

あれ？

蟹又

は、何か？

黒木

肉、どうしてたんだけ？

蟹又

昨日までですか？ えっと…あれ？

黒木

え、ご飯は誰？

雪江

はい。

黒木

ご飯均し。

あずさ

はい。

黒木

肉渡し。

雪江

はい…。

黒木

え！？

雪江

はい…。

黒木 あ、そっか、白樺さんだ！ 白樺さん、ご飯と肉、両方やってくれてたんだよね。（清人を見て）

誰かさんとは大違い。

浜中 （遮って）早く始めませんか？

黒木 ああ、そうだね。（行きながら、ふと）あれ、浜中さん、やる気だね。

浜中 いや、別に…。

黒木 （清人を見つつ）契約社員の鏡だね。浜中さんの全体を動かすやる気。白樺さんの、いつのまにか全体をカバーしている有能さ。そうやって気づかれないうちにみんなを支えてくれてたんだね。

じゃ、始めよう。（持ち場に戻る）

蟹又 はい。皆さん、頑張りましょう！

非正規たちは目を合わせない。

蟹又 えっと…。

黒木 じゃ、動かしませぬ。（機械音）作業開始！

一連の弁当作りが始まる。

雪江 ご飯を200。

あずさ 盛り付け均す。ひたすら均す。

雪江 豚肉4枚。

浜中
美保
麻鈴
蟹又

はがして乗せる。×4。

緑のバラ。バランバ、バンバンバン！

漬物。漬物。

検品、よし！

スムーズに進む弁当作りを、清人は眺めているしかない。

2
③

工場の休憩室。

奥のほうから鼾が聞こえている。

と、清人が無然と入ってきて、衛生服を乱暴に脱ぎ捨てる。

清人

くそっ…。

鼾が激しくなる。

清人

殺してやる…。ふざけんよ…。

激しかった鼾が突然、途絶える。(無呼吸症候群)

清人 ……。(その酈の様子に不安が募る。)

酈が復活する。

清人 (安心してから) 殺してやる、殺してやる…。

酈が止まり、清人も心配するが、すぐに酈は復活。

清人 (安心してから) くそ、あんな仕事…。(酈が止まる) …。(酈復活) 正社員になったってこれじ

や…。(酈止まる) ちょっと、大丈夫ですか!? (奥に行く)

清人が奥に入ったとたん、悲鳴がして前田かずきが飛び出してくる。

かずき (奥で) なんだ、お前! やめろ、やめろ! (出てきながら) うおー!!

清人 (追ってきて) ちょっと! え、ちょっと!

かずき てめえ、何しやがんだ! ふざけんなよ! かかってこい、おらあ! (身構える)

清人 ちよ、ちよっと、なんなんですか!?

かずき てめえこそ、なんだ? おれは思い通りにならねえぞ。

清人 思い通りって…。

かずき とぼけんな! おれの寝こみを襲って、あんなことや、こんなこと…ああ、やらせねえぞ、そん

なこと！

清人 何をですか！ 落ち着いてください。 軒が心配だっただけです…。

かずき 軒…？

清人 そう。急に止まったりして、なんか危ない感じだったので…。

かずき …止まってた？

清人 ええ。こっちが窒息しそうでした。

かずき ああ、まずいなあ…やっぱりか…。(と、奥に戻ろうとする)

清人 ちよ、ちよっと待って。なんなんですか、あなたは？

かずき え？ ああ、たぶん無呼吸症候群。

清人 え？

かずき なんか対策考えるから、会社には内緒ということ。(戻ろうとする)

清人 ちよっと！

かずき なんだよ？

清人 軒のことじゃなくて、っていうか、軒も気になるんですけどとりあえず置いて、あなたは？

かずき あなたは誰なんですか？

清人 ああ、トラックのドライバー。弁当が出荷できるようになるまで休ませてもらってんの、ここで。

かずき ああ…。

清人 あんたは？ 見ない顔じゃん。新入り？

かずき ああ、今日から…。

清人 そ…あれ、今工場、休憩中…じゃないよな。おい、やっぱりお前怪しいな！ 泥棒か！？ レ

イブ犯か!?

清人

やめてください! …そんなんじゃないですから。

かずき

本当か? …じゃ、なんで就業時間中に休憩室にいるんだよ?

清人

それは…ゴニョゴニョ (声が小さく、言葉が不明瞭)

かずき

は!?

清人

ゴニョゴニョ…。

かずき

クビか…。

清人

クビじゃない! …(考えながら)クビじゃない…時間を、もらったんだ。うん、考える…判断する、…そう、正社員候補だから特別に…ここで働くかどうか選ばせてくれるんだ。

かずき

へー。寝るわ、おれ。

清人

待って! 本当なんだって。ここには機械にやらせればいいような単純作業しかないから、おれみたいな有能な人間じゃもったいないだろ? だからせめておれが納得するための時間をくれたんだ。

かずき

あのさー、あんたが有能かどうか、初対面でもわかるぜ。

清人

でしょ? だから…

かずき

有能な人間がこんなところにいるわけねえだろ。寝ぼけてんのか?

清人

え…?

工場から作業終了のブザーが聞こえる。

みずき

おっし、おれの出番だ。

みずきは出ていく。

呆然とする清人。

清人

え！？

3
―
①

取調室。

清人と刑事が向かい合っている。

刑事

…で、皆殺し、と。

清人

違います！ それじゃ、クビになった腹いせみたいじゃないですか。

刑事

違うのか？

清人

もちろんです。それじゃヒーローになれない。

刑事

人殺しがヒーローなわけないだろ。

清人

だから、ただの人殺しならそうです。でも正義のため、社会のためなら…。

刑事

馬鹿言うな！ って、いや、議論はしない…。とにかくそのときお前は仕事や同僚たちに強い怒

清人

刑事

清人

刑事

清人

りを覚えた。

で、でも辞めませんでした。

ほう、なんで？

あの、勘違いしてほしくないんですけど。なんか不思議な縁を感じちゃったんです。社員の池上さんに。

は？ さっそく惚れたのか？

だから、そういうんじゃないんです。池上さんも考え方が同じっていうか…。なんか、わかってくれる人がいたんだって思ったら燃えてきちゃったんですよ。

場が工場の休憩室となり、あずさが入ってくる。

清人

あずさ

あ、お疲れっす…。

…。

あずさは清人を無視して消毒グッズなどを片付ける。

清人

あずさ

あの、池上さん…。

…。

清人

あずさ

あの、さーせん。怒ってますよね？ 黒木課長も怒ってたし…。

帰らないの？

清人
あずさ
清人
あずさ
清人
あずさ
清人
あずさ
清人
あずさ
清人
あずさ
清人
あずさ
清人
あずさ

え？ ああ、どうしようかなって。

ふーん、やっぱ口だけか。

は！？

間違っと思ってるとるんなら、誰が怒ってようと関係なくない？ そうやって空気読んで引

込めちゃうなんて、ダサ。

別に引ッ込めてなんか…。

辞めたっていいじゃない。こんな工場、いくらでもあるでしょ？

まあ、そつすね…。

みんな、毎月の給料さえもらえればそれでいいって人ばかりだよ、ここ。大卒の人だっている

のに…。ま、お勉強はできるけどって感じだね。

おれも大学行きました。中退っすけど。

…じゃ、高卒だね、経歴上は。

た、確かにそうだけ…。

おれはもつとクリエーティブな人間？

な、なんなんすか、いったい！

教えてあげてるの。契約社員でここにいたってどうにもならないってことを。能力活かすなんて

無理ゲーだよ。仕事は単純な流れ作業だけだもん。

でも、社員になれば。おれ、正社員候補なんすよ。

あー、信じちやった？ 罪だよねー、あの広告。でも、面接で何も言われなかったでしょ？ ち

やんと確認しなかったの？

清人

まあ…。

あずさ

じゃ、ますますここに理由ないじゃん。まさかあんな簡単な仕事、一生するつもりじゃないでしょ？ しかも年収150万くらいだし。

清人

…。

あずさ

まあ、生活保護予備軍って感じかな、ここににいる人たちは。その日暮らしだもん。体動かなくなったらナマポしかないよね。

清人

ナマポ？

あずさ

あ、生活保護ね。

清人

知ってます。じゃなくて、いきなりネット用語出てきたからびっくりして。

あずさ

あ、堺さんもやるんだ。

清人

はい。掲示板とかけっこう入り浸ってるっす。あと、まとめサイトとかで勉強したり。

あずさ

そうなんだ。ずるいよね、ナマポ。みんな頑張ってるのにさ。

清人

人生自己責任っすよね。甘えるなっつて世界の中心で叫びたいっすよ。パヨクのせいで全然美しい国じゃないっすね。

あずさ

はは、ほんとにね。で、どうするの？ ここ辞める？

清人

あー、いや、続けます。

あずさ

え、ほんとに？

清人

なんか、今、勇気もらえたっす。それに失敗したままじゃかっこ悪いじゃないっすか。能力あるっつてとこ見せつけて、正社員になってみせますよ。

あずさ

あのねえ…。

清人 いや、大丈夫です。そういう道選ぶのも自己責任だってわかってますから。絶対、おれ、会社に

あずさ 貢献してみせますんで。

清人 いや、おれが本気出すからには、やっぱり業績アップさせないと。ラインの生産性を上げてみせ

あずさ ますよ。あ、それにこれって世の中のためにもなるんじゃないですか？

清人 え？

あずさ いや、おれが頑張ってるみんなを引っ張れば、みんな仕事に目覚めてナマポ予備軍が少し減るかも

清人 しないじゃないですか。それって、美しい国創るのに貢献してるってことにならないですか

あずさ ね？

清人 ああ…そうかもね。

あずさ うわっ、どうしよう、総理大臣から感謝状なんか来ちゃったりしたら。別にそんなつもりじゃない

清人 いのに。

あずさ 映画じゃないんだから。

清人 いやいやいや。それが実はつながりあるんすよ、総理大臣と。

あずさ ええ？

清人 実は、総理に手紙出したことあるんすよ。あ、出したっていうか、渡したんですけど。

あずさ すごいじゃない。直接？

清人 いや、正確には首相官邸の警備員経由なんすけどね。でも、1週間後くらいに人が訪ねてきまし

あずさ たよ。刑事って言ってたけど、スカウトじゃないかな、あれ。総理のブレーンについて。根ほり葉

清人 ほり聞かれましたもん、おれの考え。

あずさ

へー。まあ、手紙に書いたの正論ばっかだったつすから。

清人
あずさ
…なんて書いたの？

簡単に言うと、自己責任ってもんがわかってない奴らとか、思考停止してる奴らを撲滅してくださいって。で、そういう奴らが多ければ多いほど儲かるパヨクとその背後にいる国を駆逐してくださいって。

あずさ
清人
あ、ごめんね。私、日報書かなきゃ。それじゃあね。(出ていこうとする)

話せてよかったつす。また夜に！ あ、時間あつたらネットで見てみてください、今の話。反日とか売国奴で検索したら大量に出てきますから。

あずさは急いで出ていく。

清人
総理大臣閣下殿、やりますよ、おれ。よし、情報収集だな。生産性アップ、生産性アップ！

清人は出ていく。

インサート場面

総理大臣が背広のボタンを嵌めながら答弁席に着く。

総理大臣

えー、様々なご意見があることは承知しておりますが、これは、まさに、いわば、そのご指摘はまったくあたらないわけですので……ちよつと聞いてください。やじはやめましょうよ。(指差しながら) 人を指差すのはやめてください。えー、いずれにしましても大事なことは、これ、声を大にして申し上げますが、世界で最も、まさに、世界で最も生産性が高く、いわばですね、いわば、そういった一億総活躍社会を実現して、まさに、美しい国、日本をトリモロス：取り戻すと、まさに、いわば、お約束申し上げます。

3-②

工場の休憩室。

浜中、雪江、美保、麻鈴が就業前の準備の手を止めて清人を見ている。

麻鈴
清人

せーさんせー？

そう。おれたちならできる！ ラインの生産性を上げて、業績をアップさせよう！ 拍手！（と、手を叩く）

一同、しばし無言の後、おもむろに準備を進める。

浜中
麻鈴

(準備しながら) あずささん、遅いね。

あ、珍しいですね。埃取りどうしよう？

浜中 下にもコロコロあるから、みんなでやりあおうか。
麻鈴 えー、キモイ。あずさんでなきゃー。
美保 強いなら、遅れてくるなよ、宮本武蔵。
麻鈴 は？ あずさんが宮本武蔵ってこと？
美保 ああ、また漏れちゃった…。
清人 ちよつと…。みんな、聞いてください！

皆の動きが止まる。

浜中 …あのさあ。きみ、なんなの、突然？
清人 みんなの将来にかかわる大事な話なんです。
浜中 はあ？ 将来っていうか、きみ昨日、全然仕事できなかつたじゃない。
清人 今日は大丈夫です。
美保 弱いなら、張り切りすぎるな、小次郎よ。
清人 は？
麻鈴 なにそれ？ ってか、小次郎弱くないんじゃない？
美保 頭が巖流島で〜！
清人 と、とにかく、みんなのためなんです。
浜中 大きなお世話だよ。
麻鈴 わけわかんない。

美保
麻鈴
美保
清人
浜中

(怒りながら) 袈裟斬りで、肩から腰まで…

美保さん、漏れてる！

あ…。

い、いやだって、業績上がれば給料アップするでしょ？

しないよ、契約社員だからね。さ、みんなそろそろ行こうよ。

遮るように蟹又が入ってくる。

蟹又

清人

蟹又

清人

蟹又

おはようございまー…堺くん！

…おはようございます。

ああ、おはよう。堺くん、来たんだね。いや、来てくれたんだね。

はい。ラインの生産性をアップさせに。

ええ？…ああ、なんだかわからないけど、ともかく来てくれて嬉しいよ。ね、みなさん！？

一同、無言。

蟹又

清人

蟹又

清人

あれ、どうしたの？

蟹又さん、この業績がアップしたらみんなの給料も上がりますよね？

どうしたの、急に？

教えてください。上がるのか、上がらないのか。

蟹又　まあ、そりや、業績がアップしたら少しは…。
浜中　いいんですか、蟹又さん、そんなこと言つて？
蟹又　え？

浜中　おれたち契約社員ですよ。

蟹又　ああ、うん。でも、再契約のときに多少は反映できるんじゃないかな？

清人　しましよう！　いや、してください。

蟹又　い、いや、私そういう担当じゃないからさ…。

清人　じゃ、誰にお願いすればいいんですか？

蟹又　そりや黒木課長だよ。工場の責任者だからね。

浜中　おれ、いろんな工場で働いてきましたけど、再契約で昇給したことなんて一度もありませんよ。

清人　じゃ、先に行つてまゝです。（出ていく）

清人　あ、あの…！

美保と麻鈴は顔を見合せて後を追う。

麻鈴　（立ち止まり）あの…。

清人　え？

蟹又　あ、堺くんね。

麻鈴　どうでもいいです。（清人に）あの、働くんならみんなの迷惑にならないようにしてください。

残業が長引くと困るんです。（出ていく）

清人 美保 蟹又 雪江 清人 蟹又 雪江 清人 蟹又 雪江 清人 蟹又 雪江 清人 蟹又 雪江 清人 蟹又 雪江 清人 蟹又

え…。

…（一句ひねろうとして）浮かばないや。（出ていく）

で、何、業績アップって？

あの…。

ラインの生産性を上げて、めちゃ充実した工場を目指すんです。

あの…。

生産性？

はい、絶対できます。でも、さっきの人たちは…

あの！

…あ、白樺さんいたのね…

あの二人はダブルワークなんです。

は？

白樺さんが喋ってる…！

あ、水田さんは大学の授業ですけど、古谷さんは昼間に他の工場でも働いてて…。

しかも長いセンテンス…！

浜中さんはよく知りませんが、でも…。

でも？

聞きたい。いろんな意味で先を聞きたい。

あの…。（間）

ここで焦らすの！？

雪江 蟹又
清人
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
雪江 蟹又
清人
蟹又
蟹又
清人

みんな、残業が無くなるんだったら嬉しいと思います。
うんうん。

ってことは、生産性アップに賛成ってことですか？
たぶん。

白樺さんは？ 白樺さんはどうなんですか？

私も、嬉しいです。

そうなんだ！

はい。それだけ早く彼に会いに行けますから…。

彼…意外な事実…。

あ、ごめんなさい。もしかして蟹又さんも私のこと…

え？

すみません。私、無神経に…。

いや、そんなことは…。

でも、本当にすみません。そういうことですから、あきらめてください。

白樺さん…。

言わないで。私、今、すごく愛されてるんです。（振り切るように出ていく）

白樺さん！ …不思議な人だなー。

やっぱりそうだったんですね？

え？ 違う違う、そんなんじゃないよ。

だっってはつきり言ってたじゃないですか。

蟹又
清人

白樺さんの誤解だって。不倫なんか考えたこともないよ。
不倫？

そう。特にうちの会社は厳しいんだから、そういうの。不倫なんて絶対ないよ。

黒木があずさと手をつないで入ってきて、清人たちを見て二人の距離を取る。

清人
あずさ

池上さん…。

…おはようございます。

黒木

何やってるの、蟹又さん！

蟹又

ええ！？

黒木

もう下に行かなきゃいけない時間でしょ？

蟹又

ああ、そうですね…。

黒木

(清人をちらちら見ながら)蟹又さんがそんなことじゃ困りますよ。ただでさえ、最近は残業になつてばかりだし、苦情とまではいかないけど、スーパーさんからご意見いただくこともけっこうあるんですよ。盛り付けの…っていうか、堺くんじゃない！

蟹又

今頃…。

黒木

は！？

蟹又

いえ…。

黒木

堺くん、来たんだ…。

清人

おはようございます。

黒木 ということは、やる気になったんだね、仕事。いろいろ納得して。

清人 …はい。

蟹又 いや、課長、それどころじゃないですよ。堺くん、工場の生産性をアップさせるって張り切ってるんですから。ね？

清人 はい。

黒木 生産性アップ？ 昨日来たばかりのやつが何言ってるの？

蟹又 いや、それは私もそう思います、熱意は…

黒木 まずは仕事に慣れることでしょ、彼のやることは！

蟹又 ええ、ごもつともです…。

黒木 だいたい、一日しか体験してないのに生産性アップとか言い出すなんて、傲慢だよ。なあ、池上さん？

あずさ はい。クリエーティブな自分とやらにこだわってるんじゃないでしょうか？

黒木 (感動して) そうだよね！ うん、さすが池上さん。的確な意見をありがとう。

あずさ いえ、そんな。課長のご指導のおかげです。

黒木 そんなことないって。池上さんが優秀なんだよ。

あずさ そんなに褒めないでください。

黒木 いいじゃない。本当のことなんだから。

あずさ もう、課長ったら…。

蟹又 (小声で清人に) 下に降りようか。

清人 はい。

黒木 ちよっと待って。(咳払い) …まだ数分ある。聞かせてもらおうじゃないか、その、生産性アツ

蟹又 プとやらのアイデアを。

黒木 課長、彼はまだそんな…。

蟹又 いや。そんな大口叩くくらいだから、なにか改善策を考えているんだろ？ 聞かせてもらおうじ

あずさ やないか。なあ、池上さん？

蟹又 はい。

清人 (同時に) 課長！ いえ、あの…。堺くん、そこら辺どうなの？ なんかアイデアあるの？

黒木 あの、一人で何役かやればいいんだと思います。

あずさ ほう…。

黒木 それは…

清人 いいから。…続けて。

蟹又 実際、さっきの人…えっと…

清人 白樺さんかな？

黒木 そう、さっきの人。あの人はやってるじゃないですか。やればできるんですよ。

あずさ なるほど。それで何が改善される？

黒木 課長…。

清人 いいから。ほら、一人何役もやることで何が改善される？ 言ってみな。

蟹又 じ、時間のロスが無くなります。今は、食材の受け渡しのときとか、自分はもう終わってるのに

うん、確かに…。

黒木 ふん、どこで仕入れたんだ、そのアイデア？

清人 え？

黒木 どうせネットとかじゃないの？

清人 わ、悪いですか？

蟹又 悪くない。悪くないよ、堺くん。課長、いきなりそういう言い方はちよつと…。せつかくアイデアを…。

黒木 蟹又さん！

蟹又 はい！

黒木 あなた、何年この仕事やってるんですか。こんなことも知らないんですか？

蟹又 ええ！？

黒木 一人で何役も仕事をこなす。いわゆる多能工の育成と活用は20年くらい前から全国の工場ですんざんやられてきたことです。その人なりの方法や手順を開発して実行し作業効率をアップさせる。そういうポリバレントな能力の活用は確かに素晴らしい。でも、その効果は限定的。工場全体としては単純な流れ作業とどっちもどっちなんです。なぜだかわかりますか？

蟹又 えつと、なぜでしょう…？

黒木 実際に作業をするのは契約社員や派遣社員、パートタイマー、アルバイトなど、様々な人たちだからです。

蟹又 はあ…、えつと…。

清人 おかしいですよ。能力を生かして自分なりに働けるなんて、絶対ヤル気になるじゃないですか。効率だって上がりますよ。

黒木 それがそんなことないんだ…。
清人 そんなことありますよ。自分で考える裁量もらって、責任も持たせてもらえたら誰だつて…
あずさ あは…。
清人 な、なんですか？
黒木 池上さん、こら。
あずさ すみません。あんまり無邪気なこと言うもんですから。
黒木 ははは。しょうがないよ。みんなが自分と同じだと思ってるようだからね。じゃ、教えてあげて。
あずさ はい。(にこやかに) 堺さん、人には向き不向きがありますよね？
黒木 (にこやかに) きみが昨日、肉の袋をなかなか破れなかったようにね。
あずさ それと同じように、考えるのが苦手な人たちもいるんです。考えるのが嫌いな人たちも。
黒木 現実には、機械のように何も考えず、ただ作業するほうがいい人たちも大勢いるんだよ。
あずさ でも課長。そう言ってるうちに機械が考えるようになってますよね。AIが搭載されたりして。
黒木 そうだね。どんどんそうなっていくだろうね。
あずさ 心配ですよ。そういう人たちは働く所無くなっちゃいますね。
黒木 ああ、それは大丈夫でしょ。単純労働は機械にやってもらおうより、人間のほうが安いから。
あずさ あ、なるほどです。さすが課長。
黒木 いやいや。

笑い合う黒木とあずさ。

清人

黒木

蟹又

清人

黒木

清人

あずさ

蟹又

清人

(うめくように) だからですよ…。

え？

堺くん…？

だから、社会のお荷物になるような人たちを少しでも無くしていかなきゃならないんですよ！
社会のお荷物って…。

このままじゃ何百万って人たちが奴隷みたいに働いて、体が動かなくなったら貯金なくて生活保護ってコースですよ。池上さんだって、昨日言ってたじゃないですか。

ああ…。

堺くん、落ち着いて。

そんな落伍者ばかり増えていったら、全然美しい国じゃないじゃないですか！

呆気にとられる一同。

清人

蟹又

清人

蟹又

清人

蟹又

おれは、おれのいる場所ではそんな無駄なことしたくないんですよ。

話題が大きすぎるかな。政治家じゃないんだから…。

政治家じゃなきゃ社会のことを話しちゃいけないんですか？

そういうわけじゃ…。

そんなふうに思考停止してるからどんどんダメになっちゃうんじゃないですか。なんとかしましょうよ。

…堺くん。

黒木

それが工場の生産性を上げたい理由？

清人

：はい。おれ、役立たずは社会からいなくなれって思ってますけど、自分から役立たずになっちゃうのは違うと思うんですよね。どんな場所にいたって、まずは自分の力で頑張ってみなきゃ。

黒木

それもネットの受け売り？

清人

い、いや、おれの考えです。

黒木

じゃ、自分のことを話しなよ。社会だなんだってごまかしてないでさ。

清人

え？

黒木

本当は社会がどうかなんて関係ないんだろ？ きみが、この弁当工場で働こうとしているきみが

落伍者になりたくないだけだろ？ 怖がってるんだ。でもきつと、そういうの認めたくないんだらうね。わかるよ。小さくて弱い自分を見つめるより、社会だ何だって大きなこと言ってるほうが気持ちいいもんね。だいたい生活保護は国からの施しじゃないよ。みんな生きる権利があるんだから。

清人

いや、だからその権利ってのには義務が伴うじゃないですか。はい、論破！

黒木

伴わないよ。権利は権利だから。義務とのパートナーじゃないんだよ。義務はまた別の話。

あずさ

課長、そろそろ時間です。

黒木

：わかった。堺くん、厄介だね、きみ。じゃアイデアを、試しにみんなに話してみなよ。万が一、

清人

本当ですか！？

黒木

万一のときには、ね。さあ、仕事仕事。下に降りて。

あずさ

はい。

清人
黒木
清人

ありがとうございます！ あの、そしたら給料アップってことでもいいですか？
それも考えるよ。まずは今日の仕事をちゃんとやりな。
はい。堺清人、仕事に入ります！

清人、蟹又は出ていく。
あずさも出ていくが、すぐに戻ってくる。

あずさ

(小声で)課長。

黒木

ああ、頼む。(隠してあったファイルを渡す)大丈夫か？

あずさ

はい。跡形もなく。あ、それから…。

黒木

ん？

あずさ

生産性アップ、試してみる価値あるんじゃないですか？

黒木

どうして？

あずさ

業績がいい方が何かと…。

黒木

…そうだね、わかった。

あずさは出ていく。

黒木がため息をつく。

暗転。

翌朝。

夜勤明けの休憩室に清人と蟹又が急いで戻ってくる。

蟹又

作戦通りにね、堺くん。

清人

はい。刺激しないように、ゆっくりコンセンサスを取っていく、ですね。

蟹又
清人

そう。夜勤明けでみんな疲れてるし、なにも今夜から急いでってことでもないんだから、わかってます。

浜中が入ってくる。

蟹又

お疲れ様！

清人

お疲れ様です！

浜中

…お疲れ様です。

浜中は椅子に腰を下ろし、衛生服をダラダラと脱ぎ始める。

清人

あの…。

蟹又

(小声で) 待って。…ゆっくり、ね、ゆっくり。彼、手強いからね。

清人 ラスボスから来ちやった感じですか？
蟹又 ん？ まあ、そんな感じ。

美保と麻鈴が戻ってくる。

蟹又 お疲れ様！

清人 お疲れ様です！

麻鈴 (低い声) お疲れ様です。

美保 オツカレサマデス。(と言っているつもり)

美保と麻鈴もそれぞれに衛生服を脱ぎ始める。

清人 あの、皆さん、どうでしたか、おれ？ 今日はライン止めなかつたですよ？

蟹又 (棒読み) うん、やればできるんだねえ。

清人 破くコツをつかみました。それに、袋を置く位置も自分なりに工夫しましたし。

蟹又 (棒読み) へー、工夫が成果として現れたんだねえ。

清人 いろいろ工夫していけば、もっと早くなると思います。

蟹又 (棒読み) うんうん、頼もしいねえ。

清人と蟹又は皆の様子を伺うが、皆は無視して帰り支度を続けている。

清人

蟹又

清人

蟹又

清人

蟹又

清人

蟹又

けど、一人だけじゃ難しいですよ。みんなで作業してるんだから。

(棒読み) わかるわかる。悩ましいところだねえ。

もったいないですよ、同じ時間で生産量が上がれば時給アップは確実なのに。

え！？ 確実ってことは…

課長が考えるって言うてましたもんね。

(棒読み) ああ、そうそう。私だってまたお願いしてみるんだけどねえ。

もちろん残業も少なくなるし、こんなにいい話はないんですけどねえ。

(棒読み) そうだねえ、そうだねえ。

皆が着替え終わり、出ていく。

…お疲れした〜。

…。

…でした…。

(見送りながら) あ、あの…。

堺くん。…ま、こんなもんだよ。みんな自分のことで精いっぱいなんだから。急がないで少しず

つわかってもらおうよ。

はい…。

でも、頼もしいよ。堺くんみたいに工場のことを考えてくれる人が入ってくれて。

…だっておれ、スカウトされるような人間ですよ。

清人

蟹又

清人

浜中

麻鈴

美保

清人

蟹又

蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人 蟹又 清人

スカウト？ え？ 芸能界とか？

いや、そういうんじゃないですけど…。ごめんなさい、あんまり人に言うことじゃないですから。なにそれ？ 気になるじゃない。

いや、マジであんまり話せないんですよ。教えてよ、そこまで言ったんだから。

(笑顔で) 困ったなあ。まあ、だから、おれの経験とか将来性を見込んで扉を開けてくれる人がいるんですよ。なんていうか、もつともつと社会の役に立つように。あの、公共の仕事なんでのぐらいで勘弁してください。

へー、公共の仕事か。かっこいいねえ。あ、ゴミ収集とか？

違います。

ふーん。そしたら堺くん、ここは腰掛なんだ？

え？

いい仕事があるんだからすぐ辞めちゃうんでしょ？

いやいや、続けていきますよ。少なくとも正社員になるまでは。

正社員？ そう。堺くん、この正社員になりたいんだ？

はい。

募集広告に書いてあったもんね、デカデカと。「正社員登用のチャンスあり」って。

そんな人見たことありませんけどね。

やっぱそうなんですか？

まあね…。うわっ！

清人

(同時に) うわっ！

休憩室の隅に雪江が残っていた。

蟹又

白樺さん！ まだいたの…？

雪江

はい、ずっと…。

清人

ぜんぜん気づかなかった…。

雪江

あの、ごめんなさい。私…。

蟹又

いやいや、いいんですよ。ちよつとびっくりしただけですから。

清人

影薄すぎでしょ。

雪江

本当にごめんなさい。私普段から…。

蟹又

普段から？

雪江

気配を消す癖がついちやあって。

蟹又

どうして！？

清人

忍者！？

雪江

…いじめられるから。

蟹又

ええ！？ だ、誰に？ 許せないな、それは！

雪江

いえ、ここじゃないんです。前の職場で…。

蟹又

ああ…。

清人

なんの仕事だったんですか？

雪江

蟹又

雪江

蟹又

雪江

蟹又

雪江

清人

雪江

蟹又

雪江

蟹又

雪江

蟹又

清人

あの、最初は製薬会社の研究室で薬の開発をしてました。ええ！？

でも、ひどい上司にパワハラされてたんです。毎日毎日、顔を合わせれば「役立たず、死ね」って罵倒されて。実験邪魔されたり、データ改ざんされたり…。私、負けるもんかって3年頑張ったんですけど、頑張りすぎたのか、メンタルやられちゃって結局…。
そうでしたか…。製薬会社でねえ。

年収は今の4倍でした。
4倍！

でも、それからしばらくは働けなくなりました。失業保険が切れたのでなんとかしようとしても、フラッシュバックが怖くてびくびくしているからか、どの職場でもいじめられるように…。

悪循環だ…。

だから、気配を消す癖が…。

大変だ…。

でも、この工場では比較的大丈夫です。人間関係が希薄ですし、ただ黙々と仕事して、ノルマが終われば帰れますし。誰ともしやべらなくても仕事ができます。

理想的ですね…。

はい。安心して働けてます。(窓を見て) ああ、朝日がまぶしい。さ、彼が待ってるから失礼します。残業が短くなる件、私で良ければ協力しますから。では。

ありがとうございます。お疲れ様でした。

いいっすね。彼氏、こんな早朝から待っててくれるんすね。

雪江 彼、朝が早いんです。79歳ですから。あ、でも元気なんですよ、いろいろ。

雪江は嬉々として出ていく。

蟹又 …不思議な人だなー。

清人 でも、とりあえず一人は仲間ができましたね。

蟹又 うん。しかもかなり優秀というか、ポテンシャル持ってる人だよ。

清人 能力活かしてくれるといいですけどね。

麻鈴が戻ってくる。

麻鈴 あの…。

清人 あ…。

蟹又 水田さん！ どうしたの？

麻鈴 いえ、ちよつと気になっちゃって。さっきの、せーさんせーって、ホントに時給アップするんで

すか？

蟹又さん！

う、うん。課長が真剣に考えてくれてるし、大丈夫だと思うよ。

ふーん、残業が少なくなるっていうのは？

作業効率上がるんだから、時間は絶対短くなるよ。

清人

麻鈴

蟹又

清人

蟹又

清人

蟹又

麻鈴
蟹又
麻鈴

そっかー。

水田さんも協力してくれるのかな？

うー、ちよつとまだよくわかってないんですけど…。

美保も戻ってくる。

美保

やっぱり！ ずるいよ、水田さん。抜け駆け！

麻鈴

え！？ 人聞き悪いことじゃないですよ。

美保

だって、自分だけ交渉するつもりでしょ？

麻鈴

美保さんに関係ないじゃん。ほら、寝る時間無くなっちゃうよ。9時には出勤でしょ、昼の工場。

美保

そうだけど…。水田さんだって学校あるじゃない。

麻鈴

今日は休講です。

美保

ずるい！

清人

ちよつと待ってよ。あの、もしかして二人とも生産性アップに興味あるってこと？

麻鈴

…面倒なんだったら嫌ですけど。

美保

私も、疲れるのは嫌だけど。

蟹又

二人ともハードな生活だもんね。

清人

でも、効率良くなれば残業は減って、給料が増えるんだよ。

麻鈴

それは、嬉しいけど…。

美保

私も、嬉しいかな…。

清人 そうなんだ！ 蟹又さん、これで！
蟹又 うん。あとは浜中さんが協力してくれたら…。ああ、どうしよう。浜中さん、帰っちゃったしな…。

(窓に近寄り) あ…。

清人 なんですか？ (窓に近寄る)

蟹又 白樺さんが帰って。自転車すっ飛ばして。

清人 立ち漕ぎ…。

麻鈴 私、呼び戻してきます。

清人 無理でしょ。チャリだよ、白樺さん。

麻鈴 浜中さんですよ。浜中さん、工場の寮に住んでるから近いですし。行ってきます。

麻鈴は走り出ていく。

美保 水田さん！ …あゝあ。あの、浜中さんは反対すると思います。

清人 ええ！？

蟹又 どうして？

美保 浜中さん、残業代ありがたいって言ってたし…。あの、浜中さん、ときどきいたずらするんです。

美保 蟹又さん、今度、注意してもらえませんか、浜中さん？

蟹又 いたずら？

美保 バランの置き場所変えちゃったり、肉の欠片を投げたり…。

蟹又 なんでもまたそんなことを？

清人
美保
清人
美保

おっさんはこれだから…。
知りませんけど、たぶん…。ミスさせて、だらだら稼ぐ、残業代…。
五七五だ。
あ、すみません。

黒木とあずさが入ってくる。

黒木

皆さん、ちょっと聞いてください。あれ？半分帰っちゃった？

蟹又

あ、水田さんと浜中さんは戻ってきますけど、白樺さんは、もう…。

黒木

そうか…。

あずさ

緊急事態ですから、今いる人にだけでも先に…。

黒木

そうだな…。えー、皆さん、残念ながらまたクレーム案件が出てしまいました。我々自慢の豚生

姜焼き弁当に、髪の毛が混入していたということです。本社のほうに写真も送られてきているようですし、本社の調査ではどうやら慰謝料狙いの狂言というわけでもなさそうです。（急に）つきましては、えー、我々として、今後、より一層の衛生管理に努め、これからも、いやこれまでに以上に素晴らしい豚生姜焼き弁当を世に送り続けていく所存でございます…。

課長。

…。

私が伝えますか？

いや…。このクレーム案件を受けて本社は、この八王子工場を…お茶の水の快適なビルにオフィ

黒木

あずさ

黒木

あずさ

蟹又

スを構える本社はこの八王子工場の閉鎖を検討しています。

黒木

ええ！？ 待つてください、そんな乱暴な。

あずさ

そのご指摘は当たりません…。

レームも。

蟹又

そ、それにしても突然過ぎますよ。

黒木

突然じゃない！ …本社は、窓からお茶の水の街並みが見渡せる本社は弁当事業からの撤退を前々から考えていたんだ。

あずさ

…もちろん、まだ決定ではありませんが、でも時間の問題かと…。

美保

あの、そしたら私たちどうなるんですか？

蟹又

古谷さん、そりゃ…。

清人

おれら、突然クビってことですか？

黒木

…きみたち契約社員は契約満了までは給料が支払われるはずだ。

美保

私、今月末までなんですけど…。

黒木

…来月の更新、つまり、工場が閉鎖されなければ当然また3か月更新したいと思っているよ。

美保

それ、決まるのいつですか？

黒木

…わからない。

美保

そ、素朴な疑問なんですけど…。

黒木

どうぞ。

美保

皆さんはどうなるんですか？ 正社員の皆さんは。

黒木
あずさ
美保
あずさ
美保
蟹又
清人
あずさ
美保
あずさ
黒木
蟹又
黒木
蟹又
蟹又

ああ…。

おそらく、別の部署に移ることになります。まあ、こういつてはなんですけど、社員ですから。ず（口をつぐむ）…。

古谷さん？

言いたくて、仕方がないけど口つぐむ、その日暮らしの、契約社員さ。

短歌になつてる…。

進化しましたね。

自分で選んだくせに…。

好きで選んだわけじゃないです。

今さらそんなこと…。

古谷さん、我々が恵まれてるかどうかはわからないよ。

え？

どんな部署に配属されるかわからないし、そもそも事業撤退を考えてるんだから早期退職を促されるってことも…。

肩叩き、ですか？

十分あり得る。クレームをきっかけに閉鎖するんだから…。おれは工場の責任者だし、蟹又さんは衛生担当だから特に…。

そんな！ 私、この年で再就職なんてなかなかできませんよ。あの、私、まだ息子が独立しないで家にいるんです。家にいっぱなしというか、引きこもっちゃつて…。それから母親は介護が必要なんです。もうすぐ90で、ひとりじゃトイレもお風呂も…。課長、お願いします。みんな、

私が稼がないと生きていけないんです。

まあ、もしそうだったらご家族で協力するしか…。奥さんにも働いてもらうとか。

蟹又 妻はとつくに出ていきました。姑の介護はおろか同居するのもいやだったとか書置きを残して…。書置き…。

黒木 でも、蟹又さん娘さんもいたじゃない。いざとなったら娘さんにも協力してもらえば…。

蟹又 娘も出ていきました。どこぞの劇団員になるんだとか言ってる。で、劇団員同士でできちゃって。

美保 バイトしながらヒーコラ言ってる生活してるくせにとうとう結婚するんだなんてメールが。メール…。

黒木 それは…おめでたく、ないですよね…。

蟹又 めでたいわけじゃないですよ。そんなんじゃない子供できたって育てられないじゃないかって返信したら、「私たちは子供の代わりに夢を育てます」なんてうまいこと返しやがって…!

黒木 うまい、のかな…。

美保 あの、俳句や川柳には形式があつて、うまいと言うには…
うるさい!

一同、沈黙。

黒木 …堺くん。

清人 はい?

黒木 きみのアイデア、試してみよっか。

清人

え？ あ、はい！

黒木

とにかく、工場閉鎖を回避するには本社に弁当事業が儲かることを示さないと。まあ、儲かると

清人

は言わないまでも潰す必要はないだろうと思わせないと。

黒木

いいっすね、それ。本社を見返してやりましょうよ。いっそ、倍返しです。

蟹又

ああ…。

黒木

課長！ 私も頑張りますよ。自分のことだけじゃなく、会社には大変、あ、もちろん課長にも大

黒木

変お世話になってますから。これは、恩返しです。

蟹又

…うん。意気込みはわかりました。じゃ、今夜からお願いしますよ。

清人

はい！

黒木

任せてください！

あずさ

…池上さん、我々は本社対応を。
はい。

黒木とあずさが出ていこうとすると、麻鈴と浜中が入ってくる。

麻鈴

お待たせしました！

清人

あ！

蟹又

浜中さん！ 嫌とは言わせないよ！

清人

はい、論破！

浜中

はあ！？

取調室。

清人

どんなに頑張ってもダメな時、どうしたらいいんですかねえ？

刑事

：なんのことだ？

清人

自分の人生が思い通りにいかなくて、ああ、こりゃあ回復不可能だなんて思っちゃったら…。

刑事

それでもなんとかしていくしかないだろう？

清人

あはは。それ、お花畑過ぎませんか？

刑事

なに？

清人

刑事さん、自分が役立たずだっと思ってたことないでしょう？ 万策尽きて途方に暮れるしかなく

刑事

なったら、頭も体も動きませんよ…。あきらめちやっつて、何も感じないように自分自身を閉じ込めて流されて、それでも、いつか誰かが何とかしてくれるかもなんて淡い期待は持ちながら毎日を過ごすって…：そんなの生きてる価値あると思いますか？ …あの人たち。

え？

場面が重なる。

ベルトコンベアーの機械音が聞こえる。

工場の面々が衛生服で並ぶ。

清人

さあ、生産性アップに挑戦してみましよう。まずは一人二役から。(刑事に)おれだって努力はしたんですよ。あの人たちが役立たずじゃないと証明することがおれの能力の高さを証明することになるんですから。

作業開始。

黒木
雪江

ご飯を200。よそつて均す。ひたすら均す。

あずさ

豚肉4枚。はがして乗せる。×4。

浜中

緑のバラ。バランバ、バンバンバン！ 漬物、漬物。

蟹又

検品、よし！

美保

ご飯を200。よそつて均す。ひたすら均す。

麻鈴

豚肉4枚。はがして乗せる。×4。

一同、誰が次を担当するか顔を見合わせる。
ブザー音。

黒木
清人

何やってるの！？ 最初の人回ればいいだろ！
なにやってるんすか！ 刑事さん、見てくださいね。一人二役で絶対生産性を上げてみせますから。(皆に)おれも入ります！

清人もラインに加わる。

黒木
清人
雪江
あずさ
蟹又
浜中
美保
麻鈴
蟹又
一同

作業開始！

ご飯を200。盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉4枚。はがして乗せる。×4。

緑のバラ。バランバ、バンバンバン！ 漬物ゝ、漬物ゝ。

検品よし。

ご飯を200。盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉4枚。はがして乗せる。×4。

緑のバラ。バランバ、バンバンバン！ 漬物ゝ、漬物ゝ。

検品よし！

おゝ！ (拍手)

次！ 次！

ご飯を200。盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉4枚。はがして乗せる。×4。

緑のバラ。バランバ、バンバンバン！ 漬物ゝ、漬物ゝ。

検品よし！

ご飯を200。盛り付け均す。ひたすら均す。

豚肉4枚。はがして乗せる。×4。

緑のバラ。バランバ、バンバンバン！ 漬物ゝ、漬物ゝ。

検品よし！

おゝ！ (拍手)

黒木

次！

一同が作業を続けるなか、刑事が声をかける。

刑事

おいおい！ これ、根本的に間違ってるぞ！

清人

え？

刑事

ラインが列しかないんだから、一人が何役やったところで同じだろ。

清人

そうなんですよ！ おれもうっかりしました！

刑事

うっかりって！

清人

でも誰も何も言いませんよ。みんな何も考えてないんです。ただ言われた通りにやるだけ。考えてても何か言って責任被るのは嫌だからやっぱりみんな黙ってます。

ブザーが鳴り、一同が作業を止める。

麻鈴

あー、ダルイ。

美保

集中力が…。

浜中

ノーコメント…。

などと愚痴りながら一同は退場。

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

文句ばつかわない！ 明日はラインのスピードアップに挑戦しますよ！ 刑事さん、わかるでしょう？ あの人たち、自分でなんとかしようなんて思っていないですよ。そのくせ、どうせ裏では福祉だ、セーフティネットだとか言っているのかしてらおうとばかり…。

普通はそんなもんだらう。

だから！ 普通のレベルを上げていかなければいけないですよ、これからは。みんなが自己責任で頑張る美しい国。これしか道はないんです。

お前なあ…。いつ自分の身体が動かなくなるかなんて誰にもわからないんだぞ。明日、おまえが交通事故で半身不随になっただけで不思議じゃないんだ。そのために…。

あはは！ 刑事さん、やっぱりお花畑ですね。ブーメランのつもりですか、それ？

なんだと？

おれはそんな甘っちょろいこと言いませんよ。そうになったらそうになったらで助けなんて求めません。全部、自分の責任ですから。

：そういう威勢のいいこと言ってる奴に限って、いざとなったら泣き言言うもんだ。

馬鹿にしないでくださいよ。おれ、自首してきましたよ。7人も殺して。覚悟できてるに決まっているじゃないですか。

だったら、遺体をどこにやったのかも話してもらおうじゃないか。

：それは黙秘します。

お前な！ 。（イヤホンに無線が入り、目で待てと示す）。わかった。：いや、任せる。：いいんだ、それで。大丈夫だ。ああ、。（怒鳴って）だから中華でも和食でもどっちでもいいつつてんだよ！ 取り調べ中なんだ、勝手に決めてくれ！ ；ああ、サラダはマストだ。お前のデザ

トと同じでな！ …（無線を切る）。まったく…。

刑事さん。…おれも腹減りました。

は？ ここ来る前に飯食ってこなかったのか？

はい。現場からまっすぐ来たんで。

ちっ、素人はこれだから…。

は？

重大事件の場合、たいていは23日間留置されるんだぞ。最後にシヤバの飯食ってから来るのが当たり前だろ？

いや、知りませんでしたから…。

予習してから来いよ。スマホで簡単だろ。まあ、いい。とにかく、お前が出頭したときには昼飯の時間は過ぎてた。お前の次の食事は夕方6時だ。

ええ！？ 何か食わしてくださいよ。取り調べのときにはかつ井取ってくれたりするんじゃないんですか？

…言うと思った。絶対言うと思ったよ、かつ井って。素人も素人、ド素人だ。これはドラマじゃないの。現実はもっとと敵しいの。調べてこなかったお前の自己責任だな。

ええ…。頼みますよ…。

ほら、弱音吐いてやがる。…じゃ、何か頼んでやるから金出せ。

え？

金だよ。既定の食事以外は実費だ。ほら。

…いや、おれ、金ほとんどないんですけど…。

清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事
清人 刑事

刑事 素人…。
清人 いやほら、ナイフとか包丁とかいろいろ買っちゃったから…。
刑事 何やってんだよ、ド素人が。
清人 さーせん…。
刑事 …仕方ないな。夕方まで我慢しろ。
清人 …わかりました。
刑事 おれがおごってやってもいいぞ。遺体の場所を教えるんならな。
清人 ……………我慢します。
刑事 ちっ、勝手にしろ。
清人 …（溜息）せつかくヒーローになったのに…。
刑事 は？
清人 おれはヒーローなんですよ。そりや今の法律は犯しましたけどね。でも、これはクレレンジングなんです。社会のためなんです。こんなの世界中でやってるじゃないですか。正式な名前はエ、エ…
清人 なんとかクレレンジングってしやれた呼び方で…。
刑事 エスニッククレレンジングのことか？
清人 そう！ それです。洒落てるでしょ？ 世界中で、歴史的にも昔から…。
刑事 最悪の差別だぞ。
清人 区別です。役に立つか立たないか。区別して…。それに、これは人間の解放でもあるんです。
刑事 はあ？
清人 役立たずで、もうどんだけ努力してもダメで、あきらめちやつて、流されるだけでって人たちを

刑事
清人

苦しみから解放してあげることでもあるんです。

お前、夢でも見てるのか？ …まあ、すぐ精神鑑定は受けることになる。

おれは異常じゃありません！ 異常じゃない！ …異常なのは、あの人たちのほうです。

4
②

場は工場の休憩室となる。

あずさが、大きな鼻腔拡張テープを貼っているかずきを叱責している。

休憩しながらそれを聞いている浜中、麻鈴、美保、雪江。

清人もなかなか口を出せない。

あずさ

かずきさん、理由があるなら言ってくださいよ。

かずき

さーせん。

あずさ

さーせんじゃないですよ。配送が遅れるのしよっちゅうじゃないですか。特に最近は一時間も二時間も遅れて。その時間、なにやってるんですか？

かずき

何って…運転してます。

あずさ

じゃ、道路が混んでるってことですか？ 朝6時前に出発してそんなにしよっちゅう渋滞してるんですか？

かずき

さーせん。

あずさ

だから、さーせんじゃないって！ 配送先からクレーム出てるんですよ。何時間も遅れて来るし、搬入作業も遅いって。あなた、力仕事は自信あるって言ってたじゃない。そりゃ、男性みたいにはいかないかもしれないけど…。

かずき

は？

あずさ

おれ、男に負けないっす。

かずき

だから！ じゃあなんでクレームになってるの？ 意気込みだけじゃどうにもならないでしょ？ そんなにできないならトラックなんか辞めちやいなさいよ。

あずさ

さーせん！ 言い訳はしないっす！

あずさ

なにそれ…。言い訳じゃなくて理由が聞きたいの。でないとこちらで対処できないでしょ？ 私、間違ったこと言ってる？

かずき

さーせん！

あずさ

だから！

浜中

あの、あずささん…。

あずさ

口出さないで、浜中さん。

浜中

いやだって、さっきから話がループしてますよ。

あずさ

この人がワケを話さないからでしょ。これも仕事なんです。

浜中

でも、聞いているこっちは気分悪いですよ。休憩時間にそんなガンガン…。

あずさ

だから、それも仕事って言うてるでしょ？ 中年フリーターは黙っててよ。

浜中

はあ？

あずさ

浜中

あずさ

浜中

あずさ

浜中

美保

麻鈴

あずさ

かずき

あずさ

かずき

あずさ

かずき

あずさ

蟹又

何？ 本当のことでしょ、中年フリーター。いい年した男性が最低賃金ギリギリで働いて。ひどいな。

ひどいのは浜中さんの生活でしょ？ ひとりっきりで工場の狭い寮に住んで。結婚とか考えられないでしょ。彼女とかいないでしょ。

だったら給料上げてくださいよ。

何言ってるの、自分で選んだんでしょ！

…。

藪蛇って初めて見た。

私も…。

…とにかく、かずきさん。この調子じゃ配送業者チェンジしなきゃならないですよ。

え？

しようがないでしょ？ これだけクレームが多かったらウチとしても…。

(突然、土下座して) さーせん！ ちゃんとしますから！ さーせん！

…やめてくださいよ…。

さーせん！ さーせん！

ああ、もう…。

蟹又が入ってくる。

お疲れさま…どうしたの！？

あずさ なんでもありません。
蟹又 いや、だつて…。
あずさ なんですか、蟹又さん？
蟹又 ああ…、いや、課長知りません？ ちよつと帳簿が…。
あずさ 帳簿！？
蟹又 ええ、見当たらないのがありまして。データ見たらちよつと不審な感じもありまして、アクセス状況もなんだか…。
蟹又さん！
あずさ は？
蟹又さん、そういう系できるんですか？ パソコンで…。
美保 ええ、引きこもりの息子となんとかコミュニケーション取るうとしてたら自然と…。
美保 どうな引きこもり？
麻鈴 ただの在宅ワーカー？
あずさ とにかく、みんなの前ですから。
蟹又 ああ、すいません。
あずさ 課長なら事務所にいるはずですよ。行きましょう。(出ていく)
美保 (追いながら) いや、それがいなかっただですよ。GPS追っても反応ないですし。(出ていく)
麻鈴 それはちよつと…。
あずさ 調子に乗ったね、あのオヤジ。

かずきが顔を上げる。

かずき

あゝ、参った。

浜中

かずきさん、大丈夫？

かずき

は？ 何が？

浜中

何がって…土下座まですることは…。

かずき

なんでもないよ、金のためだから。

浜中

え？

かずき

金稼がなきやならないだろ？ だったら土下座でもなんでもするよ。

浜中

はあ…。

かずき

「地獄の沙汰も金次第」って肝に銘じてるし。座右の銘ってやつ？

浜中

そうなんだ。

かずき

意味わかる？ 世の中なんでも金で…

浜中

知ってる知ってる。

かずき

そ？ ポリシーだからさ。金のためなら土下座だってするし、弁当だろうが死体だろうが、なんだって運ぶよ。そういう気合だったら負けねーから。じゃ、仮眠取らせてもらいまーす。

かずきは出ていく。

浜中

うらやましいな、あの気合…。

美保 清人 浜中 清人 麻鈴 清人 浜中 清人 美保 清人 浜中 清人 麻鈴 清人 清人 清人 清人 清人

ほんと、うらやましい。

正論で押しまくってましたもんね。

え？

あそこまでがっつり人を詰めるのなかなかできないっすよ。

もしかして、あずささん、ですか？

うん、さすがだよ。

そうですね…。

浜中さん、年下の女性にあそこまで言われるってどんな気持ちっすか？

は？ …いや、おれそういうの関係ないから。

へー、おれだったらダメだな。もう工場なんて来れないかも。

…心配しなくても閉鎖になるだろ、ここ。

ですよ…。

いや、まだわからないっすよ。気合でなんとかしましょうよ。

気合でなんとかなるもんじゃないだろ。

ですよ…。

あきらめちゃダメだって。どんな状況だって自分たちで努力して…。

もう黙ってるよ、正社員候補！

…はあ？

…何？

い、いや、今の誉め言葉っすよね？

浜中 　　そう。
清人 　　なら、いいっす。
美保 　　：あの、浜中さん、長年契約社員やってるってどんな感じですか？
浜中 　　古谷さん！？
美保 　　いや、真面目に。私、事情があつて正社員には一生なれないと思うんで。
麻鈴 　　なにそれ！？
美保 　　いや、前科があつて…。
清人 　　前科？
麻鈴 　　なに？ ゼンカつてなんのキャラ？
浜中 　　水田さん。
麻鈴 　　え？
美保 　　キャラでいうと…
浜中 　　答える？
美保 　　キヤッツアイとか…？
清人 　　かっこいいじゃん。
麻鈴 　　犯罪者つてことだよ？
美保 　　え…ええ！？ （と距離を取る）
清人 　　巻き込まれたの。友達に頼まれて口座を貸したら、詐欺に使われて…。口座を貸すこと自体が犯罪みたいで…。あの日の自分を全力で殴りたいです。
美保 　　なるほど…。うーん、この年まで契約社員やっているとどんな感じか？

美保 はい、お願いします、先輩！

浜中 ……最初はね、会社で奴隷のように働かされるよりおれは自由に生きるんだーなんて思ってたけどね。

美保 思いますよね、確かに。

浜中 年々、逆に自由じゃないんじゃないか？ って思うようになったかな。

美保 そ、その心は？

浜中 金だよ。契約社員なんて、よっぽどのスキルがなきゃ最低賃金みたいなもんでしょ？ 毎日の生活でいっぱいいっぱい自由を満喫するなんてできないよね。何するんでもかかるとか、金が。

美保 やっぱ…。

浜中 さっき、あずさんに言われたことはその通りだよ。返す言葉もない。

美保 で、で、どうするんですか？

浜中 え？

美保 これからです。これから。

清人 そうですよ、どうするんですか？ やっぱ一人つきりで全国の工場を転々として、体が動かなくなったらナマポ、いや生活保護狙いですか？

麻鈴 あゝ、見える！ その将来が簡単に見えるちゃう！

浜中 だったら何！？ きみらには関係ないだろ！

麻鈴 違うの。私の将来のことです。

浜中 は？ 水田さん、まだ若いでしょ？

麻鈴

浜中

美保

美保

美保

美保

美保

麻鈴　でも、なんかその蟻地獄みたいな将来、かなり信ぴょう性が高いっていうか…。私、マイナスからのスタートですし。

清人　マイナス？

麻鈴　奨学金があるんです。卒業したら返済スタートで…。

浜中　ああ…。いくらくらい？

麻鈴　4年で380万…。ウチ、仕送りがほとんどないですし…。

浜中　ああ…。

麻鈴　それに何かと必要だから運転免許も取りました。あと、やっぱりかわいい服とか欲しいですし、たまにはおいしい物だって…。それと、私お酒相当強くなって、量いっちゃうんですよね…。

浜中　若いのはうらやましいけど…ね。

麻鈴　いや、若いって落とし穴いっぱいですよ。けしかけるのやめてください。そういうおじさんの習性、迷惑なんですよ。私、「若いときの経験は貴重だよ」って言葉信じて、海外旅行とかガンガン行っちゃってますもん。

浜中　…全部、借金で？

麻鈴　…この給料じゃまったく追いつきません。

清人　どつぼだな、ここ…。

美保　あの、もつと吐き出していいですか？

清人　ええ！？

美保　私、損害賠償請求されてるんです。被害者の遺族から。

浜中　な、なんで古谷さんが！？

美保

浜中

知りません。詐欺の元締めは逃げちゃってるし、友達は塀の中だし、矛先は私しかいないんじゃないですか？ でもそれで630万も…。私、毎日18時間は働いてるんですよ。もちろん、土日なしで。
古谷さん…。

沈黙。

浜中

(溜息) あゝあ、戦争でも起きないかな。

清人

なんすか、いきなり？

浜中

いきなりじゃないよ。ここ何年もずっと願ってる。戦争起きないかなって。

清人

戦争って、なんで？

浜中

もう一度、焼け野原になつてさ。この国のシステムがめっちゃめっちゃになって、おれらのもろもろ

清人

もうやむやになってね。んで、どさくさに紛れて成金目指したりとかさ。

清人

何馬鹿な事言ってるんすか。

浜中

けっこう本気だよ。初詣は靖国神社に参拝したもん。皆さんどうか復活してくださいって。

清人

何やってんすか！

浜中

それしか思いつかなかったの。どんなに努力したってダメなんだもん、この蟻地獄では。

清人

いや、だからって…。

浜中

じゃ、どうしたらいい？

清人

…わかんないすけど。ただ、そんなどうしようもない状況で、生きてる意味、あるんすか？

浜中
：いっそ、死んじまえばいい？

沈黙。

あずさが戻ってくる。

あずさ
休憩終わりますよ。下に集合してください。

沈黙。

あずさ
何してるんですか！？ 作業しなきゃ給料もらえませんよ！

浜中
：はいはい。

麻鈴
あと4時間…。

美保
身体、重…。

浜中、麻鈴、美保が出ていく。

あずさは消毒セットを準備し始める。

清人
：ひどいっすね、ここ。

あずさ

え？

池上さんのこと尊敬しますよ。正社員つってもこんなところで。あの人たち、全然だめじゃないで

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

すか。何にも考えてませんよ。ってか、目の前の損得しか考えてませんよ。
…そんなもんですよ。

どうなるんだろ、この国。このままじゃ美しい国なんて全然…。

堺さんっていちいち話が大きいですよね。

え？

自分の心配もしたほうがいいんじゃないですか？ 堺さんだってみんなと同じですよ、私から見れば。

いや、でも、自分のことより大きなことってあると思うんですよ。

例えば？

例えば…、全体のためになるんだったら自分は犠牲になってもいいっていうような…。

は？

だから、世の中が良くなるんだったらというか、良くするために自分の身を捧げるって尊いこと

だと思っすよ。

なにその特攻隊精神。キモイ。

池上さん！ 特攻隊バカにしないでくださいよ。

はいはい、わかりました。だったらその精神を生かして、工場救ってください。

え…。

浜中さんたち、私たち。この工場の人々を救ってみてください。

それは…まず正社員になって…

それじゃ遅いでしょ。今、工場が閉鎖されるかどうかって時なんだから。

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

清人

あずさ

…。

ま、できるわけじゃないですよ。(出ていこうとする)

待ってください。あの、それができたらおれヒーローですよ？

ヒーロー？

この工場救うだけじゃなくて、ここのみんなを救うことが世の中のためにもなるんだったら、完璧にヒーローですよ？

何言ってるんですか？

ク、ク、ク、クレンジングって知ってますか？

…クリームとか？

そう、メイク落とすだけじゃなく毛穴の汚れからスッキリって、違う！ いや、違わないです。つまり、社会の汚れ、不要なものを取り除くことですよ、クレンジングって。なんの希望もない、なんにも役に立たないなら死んでもらったほうがよっぽど世の中のためなんです。

ああ…。塚さん、ネットの見過ぎじゃない？

いやいやいやいや、現実ですよ。現実に行われてることです。歴史的にも…。

塚さん！ …作業始まりますよ。

え…。

落ち着いたら、下に来てください。

あずさは出ていく。

清人は悪態をつきながら休憩室を歩き回り、雪江に気づく。

清人　くそっ、自分はなんだ、不潔な不倫女じゃねえか…。(見つけて) うわっ!!!　い、い、いた

雪江　んですか、白樺さん？

清人　ええ。ずっと…。

雪江　勘弁してくださいよ、その気配消す術…。

清人　もう何もかも嫌になりました。

雪江　…どうしたんですか？

清人　彼が浮気してたんです。

雪江　え！？　79歳ですよね…？

清人　相手は馴染みのヘルパーさん。私がこうしてる間に夜な夜な…。

雪江　あちゃー。

清人　私だけ愛してるなんて口ばかり…。私、もう少しで薬を調合するところでした。彼を殺して

雪江　私も…。

清人　やめてくださいよ。元製薬会社の研究者でしょ？　シャレにならないっすよ。

雪江　本気です。でも、やっぱり私、彼を愛してるんです。その彼に薬を盛って発作に見せかけてなん

清人　ととてもできません。

雪江　具体的過ぎっす、白樺さん。

清人　だからお願いです。そのクレンジングというのをしてください。私はもうなんの希望もありませんし、何かの役に立つこともありません。

雪江　白樺さん…。

清人　クレンジング、してくれませんか？　私のヒーローになってくれませんか？

雪江

清人

清人
雪江
清人

え…。
まさか、あなたも口だけですか？
え…？

4
―
③

工場の面々が登場し、それぞれの幸せな場面をスローモーションで演じる。
場面が重なり、清人が手紙を読む。

清人

「拝啓、総理大臣閣下殿。私はいよいよ計画を実行しようと考えております。お耳汚しになりますので具体的にお伝えするのは遠慮いたしますが、人数も多いことですし、ナイフや包丁などを数本用意していることだけお知らせください。」

工場の面々が、ベルトコンベアーに並ぶ。

清人

「役立たずを抹殺し、社会に寄生する者たちを駆逐することは、発生する不幸を最小限に抑え、愛するこの国、ひいては全世界に平和と安定をもたらすと閣下殿から学びました。」

清人も参加して、豚生姜焼き弁当を作り始める。

黒木

作業開始。

雪江

ご飯を200。

あずさ

よそつて均す。ひたすら均す。

清人

豚肉4枚。

浜中

はがして乗せる。×4。

美保

緑の balan。balanバ、バンバンバン。

麻鈴

漬物。漬物。

蟹又

検品良し。

黒木

スピードアップ！

機械音が早まると、一同はそれぞれのセリフと動作を間断なく連続して行う。皆の言葉と動作が重なり、最速の単純作業となる。ブザーが鳴り、機械が止まる。

黒木

インターバル！

麻鈴

きつつい…。

浜中

なんだよ、これ…。

蟹又

腰が…。

清人

すぐ行きますよ！

美保

ええ、もうちよつと…。

黒木

作業開始！

機械音が始まり、一連の高速作業が始まる。
そのなかで清人は総理への手紙を読み上げる。

清人

「総理大臣閣下殿。人間は機械にはなれません。当たり前ですが、働くには適度な休憩も必要です。疲れれば不満も溜まります。人間関係のストレスも高まります。」

ブザーが鳴る。

黒木

インターバル！ どんどん行くよ！

浜中

おいおいおい…。

清人

生産性高まっています！

あずさ

工場のために、がんばりましょう！

黒木

作業開始！

一同、シャカリキになって作業する。

清人

「では、これからの世界で、また、美しい国を作るにあたって、役立たずとはどのような定義されるのでしょうか？ 私が勤めているような社会の底辺にある工場では、機械になれない者は役

立たずということになるのではないでしょうか。」

ブザーが鳴る。

黒木
インターバル！

一同は座り込んでしまう。

清人
あずさ
（立たせながら）何やってんすか！ ほら、まだまだ続きますよ。

黒木
（棒読み）みんな、エイエイオー。

作業開始！

清人
「機械になれないことで、個人の不幸は身近な者の不幸へと連鎖し、やがて社会全体を蝕む不幸へと連鎖していきます。そういつた不幸の連鎖はやはり早めに断ち切ることが一番だと判断します。総理大臣閣下殿、これは美しい国を作るためには避けられない痛みなのではないでしょうか？ この道しかないなかで、乗り越えねばならない痛みなのではないでしょうか？」

一人、また一人と作業から脱落していく。

清人
「私は、作戦を実行しましたら速やかに警察に出頭いたします。この聖なる行為を広く社会に広

めねばならないからです。総理大臣閣下殿におかれましては、どうか私の疑問への回答を切にお願い申し上げます。」

清人はナイフを取り出し、皆に立ち向かっていく。

清人

立て！ 作業を続けろ！ 機械になれない奴は殺す！

悲鳴が上がる。

黒木が駆け込んでくる。

黒木

やめろ、堺！

うるせえ、不倫野郎！ みんなまとめてクレンジングしてやる！

清人

清人の叫びと皆の悲鳴が重なる。

暗転。

5
―
①

清人の叫び声が続いている。

明るくなると、取調室で清人が叫んでいる。

落ち着け！ 墜！ 落ち着け！

…。(息が荒い)

落ち着けよ…。

刑事さん、おれのこと、ニュースになってますか？

ああ…。

よし。じゃ、総理の耳にも入ってますよね？

…たぶんな。

総理から回答が来たらすぐ教えてくださいね。たぶん、直接は来ないでしょうから。記者会見のコメントとか…あ、コメントのなかに混ぜ込んでる場合もあります。暗号みたいに。

暗号？ こじつけりやどうとでも解釈できるだろうさ。

…褒めてもらえるでしょうね。そしたら、完璧なヒーローだ。

7人も殺したんなら怪物だろ。お前、確実に死刑だぞ。この美しい国では。

それもヒーローの条件じゃないですか。非業の死を遂げるのが真のヒーロー。ヒーローオブヒーローですよ。

なんだそりゃ？ 夢でも見てるんじゃないか？ ふん、怪物の夢か。モンスタードリームってところだな。

はは。刑事さん、英語できないんですね。怪物の夢だったらドリームオブモンスターじゃないですか。

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

清人

刑事

刑事

やかましいわ！

清人

ははは。あ…たぶんザが付きます、どっかに…。あれ、どうだったっけ？

刑事

どうでもいい。それよりお前、心神喪失で無罪を主張しようってんじゃないだろうな？ 夢みた

清人

いな話して、頭おかしいフリして…。

刑事

やめてください。それじゃヒーローになれません。

清人

だったらそろそろ話してもらおうか。遺体をどこに移した？

刑事

それは、黙秘します。

清人

おまえ！

刑事

黙秘します！

清人

…いいだろう。怪物との勝負だ。覚悟しろよ。7人もの遺体だ。すぐ手掛かりが見つかるだろう

刑事

さ。

清人

さあ、わからないと思いますよ。

刑事

言ってる。(イヤホンに連絡が入り) ほら、来た！ どうした？ …ああ、なんだと！？ なん

清人

で早く連絡しなかった？ …ああ、わかった。すぐ行く。…すぐ行くって言うてるだろ！ 取り

刑事

調べ中にラーメンなんか頼むな！ (無線を切る) ちっ、麵伸びてるだろ、もう。ちよつと行っ

清人

てくる。

刑事

あ、飯ですか？

清人

…怪物の飯はまだだ。だが、話すなら…。

刑事

黙秘します。

刑事は出ていく。

清人

怪物…。

溶暗。

5
②

回想。

工場内で清人がナイフで皆を脅すシーンに戻る。

清人

立て！ 作業を続けろ！ 機械になれない奴は殺す！

悲鳴が上がる。

黒木が駆け込んでくる。

黒木

やめろ、塚！

清人

うるせえ、不倫野郎！ みんなまとめてクレンジングしてやる！

清人の叫びと皆の悲鳴が重なる。
清人、気が付いて出口の前に立ちはだかるが腰が引けている。

黒木 お前、自分が何してるのかわかってるか？

清人 わかってるよ。ヒーローだぞ、おれは。

蟹又 堺くん、止めようよ。こんなことはやめよう？

清人 黙れ！ すぐあんたの番になるぞ。

黒木 わかった、堺！ おれを刺せ。おれのは好きにしている。だが、他のみんなはすぐに解放し

ろ。外に出してやれ。

蟹又 課長…。

あずさ 黒木課長、やめて。

黒木 おれは工場の責任者だ。どんなことになってもみんなのことは守る。池上さん、いや、あずさ。

後は頼んだよ。さあ、堺、おれを好きにしろ！

課長！

なんであんたがヒーローになってんだよ！

ほら、刺せ。殺してみろ。

くっ、指図するな。自分のタイミングで行く。

堺くん、お願いだよ…。だいたい、そのクレンジングって何？

は！？

あ、それは私が！

雪江

清人

蟹又

清人

黒木

清人

あずさ

蟹又

雪江

清人

雪江

清人

雪江

清人

雪江

清人

雪江

蟹又

雪江

清人

雪江

蟹又

黒木

清人

黒木

清人

黒木

白樺さん…。

堺さんは今、忙しいでしょ？ 私は味方だから…。

…お願いします！

クレンジングといえばまず、化粧を落とすことですよね。口紅やファンデーションなど油性のものは水では落とせませんから、界面活性剤の入ったローションやクリームで…

白樺さん、そこはしょって！

あ、はい…。浄化するということです。（清人を見る）

そこは詳しく！

あ、はい…。この場合は社会に頼るだけの役立たずを駆逐して、普通の人たちが暮らしやすい

ようにすることです。

その通り！

じゃあ、お願いします。（祈りのポーズ）

白樺さん、危ない！

あつ！（隅に追いやられる）蟹又さん、やっぱり…。

違いますよ。（雪江から離れる）

堺…いくら欲しいんだ？

は？

御大層なこと言ってるけど、どうせ金が欲しいんだろ？ いくらだ？

か、金目当てなんかじゃない！ くだらないこと言うな。

くだらなくないだろ？ みんな金が必要で働いてるんだから。言ってみろ。なんとかできるか

もしれないから。

課長…。

ね、蟹又さん。おれたちはみんなの給料がちゃんと払われるように必死に頑張ってきたよね？みんなそれぞれに事情を抱えてるけど、そのほとんどは金のことだ。だから、みんなの出勤日数はもちろん、残業時間だって厳しく管理してきた。少なくともこの給料のことでみんなの事情が悪化しないように努力してきたつもりだ。堺、言ってみろ。

だから、金じゃねえって！

ああ！！ 課長、そういうことだったんですね！？
は？

いや、勤怠管理の帳簿が見当たらなかったんで元データを探してみたんですよ。そしたら、元データもサーバーから消去されてたんで、こりや怪しいなと思ってたんです。

ええ！？

蟹又さん…。

そういうことだったんですね…。でも、PCのハードディスクに残ってるんじゃないかって片っ端から当たってみたら運よく復元できましたんで、元データを。そしたら…。

皆が黒木と蟹又の周りに集まり始める。

そしたら？

まさか…？

蟹又
黒木

清人

蟹又

黒木

蟹又

一同

黒木

蟹又

浜中

麻鈴

美保

また藪蛇？

清人

ちよ、ちよつと…！

蟹又

完全に正確でした！ いや、正確どころか、本社から切り下げるように言われている残業代の端数時間を切り上げて計算してくれました。

一同

おお〜！（拍手）

清人

おいおいおい！

蟹又

本社に睨まれますもんね。帳簿が見つかったら…。

黒木

蟹又さん、どうやってそんなことを…。

蟹又

いやあ、引きこもりの息子とコミュニケーション取ろうとしてたらいつの間にか…。

美保

だからどんな引きこもりだって。

麻鈴

ビバ、息子！

一同は再び拍手。

清人

おーい！！！！ 戻れ！！（ナイフを振り回して注目を集める）

一同、以前に居た位置に戻る。

清人

バカにしゃがって！ こっちに来い！

清人は美保を羽交い絞めにしてナイフを突きつける。

やめてください！

動くな！

緊張が走る。

美保
清人

蟹又

一同

美保

蟹又

一同

美保

蟹又

一同

清人

美保

蟹又

黒木

でもですね。違うものも見つけちゃいました。

え！？

ちよつと！

：課長、架空取引はいけませんよ。

ええ！？

助けてよ！

どうします、課長？ 手が後ろに回っちゃいますよ。しかも協力者がいますよね？ 言わなくて

もわかると思いますか…。

あ！

池上さん！ ふざけやがって、お前ら犯罪者か！

おまいう！？

池上さんが架空の伝票を起こし、課長が決済。金はペーパー会社の口座に…。そうですね？

うう…。

あずさ

刑事ドラマみたい。

美保

こっち忘れないで！

蟹又

課長。池上さん。早い方が罪は軽くなるんじゃないですか？

あずさ

余計なこと言わないで。誰が自首なんかするもんですか。私はお金なんかどうでもいい。ただ、

清人

お前ら、いい加減にしろ！ こいつを殺しちまうぞ！

美保

やめてー！

美保は叫びながら、空手技で清人を撃退し、ナイフを奪う。

浜中

古谷さん、強い…。

麻鈴

恐るべし、通信教育…。

黒木

捕まえろ！

蟹又

え？ ええと…

黒木

堺だよ！

蟹又

ああ！ (清人を取り押さえ) 神妙にしろ！

清人は皆が脱いだ衛生服で縛られる。

黒木
あずさ
黒木
あずさ
黒木
浜中
蟹又
浜中
あずさ
浜中
黒木
浜中
黒木
蟹又
黒木
浜中
浜中

：よし、警察に電話だ。(行こうとする)

待って！ 私たちはどうなるの？ 警察が来たら…。

あずさ、あきらめよう。

だめ！ 離れ離れになっちゃうよ。二度と会えなくなっちゃうよ。

あずさ…。

あの、ちなみにいくらくらいなんですか？ その、横領した額。

やめようよ、浜中さん、そういうのは…。

もったいないじゃないですか。返さなきゃいけないですよ、捕まったら。

浜中さん…。

おれらの給料が盗られたわけじゃないですし、むしろ課長は残業代きっちり計算してくれてたわけですから…。

どうしろって言うんだ？

うーん、総額教えてもらえますか？

…。

2300万。ですよね、課長？

そのぐらいだ。

ええ、それだけですか？ 横領っていったらもつと…って、こんな小さい工場じゃ精一杯か。

…すまん。

まあ、しようがないですね。えっと、8人だから…あ、堺くんはいららないよね？ じゃ、7人で

割って一人320万ってところか。

黒木 浜中さん、あんた脅してるのか？

浜中 まさか！ でも、ぼくらもう知っちゃいましたから。

黒木 脅しだろ、それ。

あずさ いいですよ、浜中さん。

浜中 ホントですか？

あずさ ええ。私は課長といわれれば、それで。

黒木 あずさ…。

あずさ お願い。今回だけは言うこと聞いて。

黒木 …毒を食らわば皿までか。口外しないと約束するんだな？

浜中 そりゃ、ばれたらぼくらもお縄ですから。それにほんと助かりますよ。320万あれば、新しい

道に挑戦することもできます。

麻鈴 私も助かる！

美保 私も。

蟹又 確かに、助かります…。

雪江 待ってください！ 世の中そんなに甘くないですよ。工場が閉鎖されたらばれるに決まってるじ

やないですか。

黒木 当然だ。財務整理するから…。

浜中 ああ、くそっ！

蟹又 皆さん。ここは冷静になりましょう。人には越えちゃいけない一線ってものがあるはず。白

樺さん、よく言ってくださいました。

雪江　いいえ。私は堺さんにクレンジングして欲しいだけです。
蟹又　そんな…！

雪江　役立たずの私でも最期に何かのお役に立てるなら…。

蟹又　そんな考えはいけません！役に立つとか立たないとか、そんなことで命を量っちゃいけない、いや、そもそも量れるものじゃないですよ、命は。

雪江　蟹又さん…。

蟹又　生きていきましよう、白樺さん。

雪江　やっぱり私のこと…。

蟹又　え？

雪江　蟹又さん、こんな私でも生きていいのでしょうか？　79歳の彼に浮気されてしまった私でも、もちろんです。

蟹又　怒りに任せて薬を盛ろうかと考えた私でも？

雪江　考えただけですよね？　私だって母の介護に疲れたときには…。

蟹又　怒りが収まらず、彼のキャッシュカードを持ち出してしまった私でも？

雪江　そんなこともあり…。

蟹又　え？

一同　ああ、なんか希望が湧いてきました。一度死んで、生まれ変わったみたい！

雪江　白樺さん！？

蟹又　

あずさ　それだ！！

蟹又　：池上さん？

あずさ　私たち、生まれ変わりましたよ！

黒木　何言ってるんだ？

あずさ　一度死んで、生まれ変わるんです。

美保　あの、仏教的な？

麻鈴　輪廻転生…？

あずさ　何言ってるんですか。私たち、今殺されかけてたじゃないですか。

一同　あ！（清人に注目する）

黒木　：って、わからん。全然意味がわからない。

あずさ　だから、殺したことにしてもらって、私たちみんな逃げちゃうんですよ。

黒木　逃げちゃうって…。

あずさ　どっか遠いところで、名前も変えて。人生をやり直すんです。逃走資金ならあるじゃないですか。

黒木　あの金で…？　し、しかし一人300万程度じゃ…

雪江　あの！　これも使ってください。（カードを掲げる）

どよめく一同。

雪江　これがあれば当分は困らないかと思えます。彼、資産家でしたから。

美保　過去形…。

麻鈴　早っ。

あずさ

：暗証番号は？

雪江

：2933。

美保

フクミミ…。

麻鈴

っぼいな。

浜中

もしかして、億？

一同

億？

雪江

(頷く)

一同

お〜！！ (拍手)

黒木

わかった。毒を食らわば皿までだ。我々は大量殺人事件の被害者になる。みんな殺されたことにするんだ。犯人は当然、堺くん。堺くんは我々を殺し、死体をどこかに隠したことにする。動機は、そのクレンジングとやらだ。堺くん、きみには自首してもらおうよ。どうせそのつもりだったんだらうから、いいよね？

…。

清人

お願い、堺さん。あなたしか私たちを救えないの。私たちのヒーローになってください。

雪江

頼むよ、堺くん。

浜中

お願いします。

美保

お願いします。

麻鈴

：堺さん、あなたやっぱり口だけ？

あずさ

え？

清人

うまくいけば、あなたヒーローになれるんだよ？ そのクレンジングとやらを手を汚さずに実行

清人
あずさ
清人
あずさ
一同
浜中
一同
黒木
浜中
美保
浜中
麻鈴
浜中
麻鈴
浜中
麻鈴
浜中
麻鈴

できるんだよ？ しかも私たちみんなにとってもヒーローになれる。最高じゃない？
：わかったよ。

え？ ；聞こえない。

わかった！ わかりましたよ！ やればいいんだろ！

皆さん、ヒーロー誕生です。

おー！ (拍手)

あれ！？ 証拠が必要ですよ？ ってことは、おれたちやっぱり刺されるってことですか？

おー…。

：確かに、我々が実際に血を流す必要はあるな。

しょうがないか。死んだと思わせるわけですもんね…。

い、痛いんじゃないですか？

痛いだろうね…。

えー！ 痛いのやだ！ 私できません。

水田さん、借金に追われてるでしょ！

：はい。

死んだら返さなくていいんだよ。

だけど…。

それだけじゃない。血を流せば、大金が手に入るんだよ。

あ…。

借金に追われることなく、誰も知らない土地で新しい人生をスタートできる。

美保 やる！ 私、絶対やる！

浜中 …水田さん？

麻鈴 …やります。

浜中 よし。白樺さんは？

雪江 私、血が薄いんですけど大丈夫でしょうか？

浜中 …献血じゃないから大丈夫です。

黒木 あとは治療をどうするかだな。みんなで病院に行くわけにはいかないし…。

雪江 あ、私縫えます。帰れば針と糸もありますし。

黒木 ほんとに！？

美保 さすが元製薬会社の研究員…。

雪江 ただ、動物しか縫ったことないですけど…。ネズミとか。

黒木 十分ですよ！ よし、これなら…。

浜中 現実的になりましたね。うわ、人生リセットなんて本当にできると思わなかった。

美保 頑張りましょう！ こんな一致団結初めてです。

一同、歓喜の拍手。

蟹又 待つて！ …待つてくださいよ。それ、完全に一線を越えちゃいますよ。何やってんですか、い

黒木 い大人がみんなして…。

蟹又さん。みんなが助かるんです。協力してください。

蟹又　な、何を言ってるんですか。これあなたの尻拭いじゃないですか。私は真面目に生きてきたのに…。
黒木　すみません。その点は、本当に申し訳ありません。

蟹又　やめてくださいよ。…私がいなくなったら家族が困るんです。課長だって家族がいるじゃないですか。

黒木　残念ながら、家族から見れば私は不倫したあげくに横領に手を染めた犯罪者だ。死んだほうが喜
びますよ。保険金が入りますし。

蟹又　はあ!?

黒木　蟹又さんも掛けてるんじゃないですか、生命保険。

蟹又　か、掛けてるけど…。でも、人の存在ってそんなものなんですか？　つながりって金で簡単に断

ち切れるものなんですか？　ねえ、皆さんにだって親兄弟がいるでしょうが！

あずさ　…幸せなんですね、蟹又さんは。でも、みんなはそうじゃないってことです。もちろん、私も。

黒木　あずさ…。

あずさ　私も課長と同じ犯罪者です。とつくに一線は越えてますから贅沢は言いません。課長と一緒にい

られるだけで十分な贅沢です。

蟹又　そんな…。

蟹又さん。おれは孤独死しても3か月は見つかからない自信ありますよ。

浜中　私はとつくに絶縁されてます。無縁仏決定の身ですから。

美保　私も、悲しむのは借金取りくらいかな…。

麻鈴　私は恨みしかありません。藁人形の作り方ばかりうまくなって…。

雪江　冗談はやめてください！

蟹又

雪江 冗談じゃありませんよ。でも私、今、とてもすがすがしい気分です。こんなの本当に久しぶりなんです。

黒木 はは。よく揃ったな、これだけの人材が。

あずき 引き寄せてるんじゃないですか、この工場が。だって320円ですよ、ここのお弁当。言えてるな…。

黒木 終業のブザーが鳴る。

浜中 終わりの時間か。

美保 ラッキー。今日、ほとんど働いてない。

あずき かずきが入ってくる。

かずき お疲れっす！ あれ、何やってんすか？

黒木 ああ、いいところに来た。今日はちよつと荷物が違うんだ。変更っすか？ いいっすよ。

黒木 ちよつと特殊なんだけど、ここみんなを運んでほしいんだ。え！？

黒木 あ、堺くん以外のみんなね。行先は…
かずき いいっすよ。

黒木

かずき

黒木

かずき

黒木

かずき

え？

いいっす、いいっす。何でも運ぶっすよ。どこにでも。金はもらえるんすよね？

もちろん。十分払うよ。行先は…

(耳を抑えて) わーわーわー。

おい！

いいっす、いいっす、オツケーっす。乗ってから指示してもらえればオツケーっす。おれ、馬鹿なんですぐ忘れるし。じゃ、トラックいつもの搬入口っすから、準備できたらよろしくっす！

かずきは走り出ていく。

蟹又

はは、ははは…。(へたり込む) なんですか、これ？ 私たち、何やってるんですか！？ 自分勝手だよ。勝手過ぎる。人は、一人っきりで生きてるわけじゃないでしょうに…。で、なんですか？ 人生リセットして、大金もらって別人になって暮らす？ そんな夢みたいなこと…。怪物だ、あんたらは！ こんなこと平気で…。

平気なわけじゃないですよ、みんな。

：私、息子どうしたらいいですかね？ 引きこもりの息子。

たぶん稼いでますよ、息子さん。PCでいろいろやってるんですよね？

劇団員になった娘は？

好きなことやってるんだし。

むしろうらやましいですよ。

麻鈴

美保

蟹又

浜中

蟹又

黒木

かずき

蟹又 介護が必要な母は？ もうすぐ90になる私の母親！

浜中 …保険金でヘルパーさん雇うんじゃないですか？ それに…

美保 90になるんだつたら…

麻鈴 ねえ…。

蟹又 ふざけるな！ 母親だぞ！ おれの母親だ！

黒木 蟹又さん、落ち着いて。もう時間がない。お願いします。

蟹又 …お前ら、本当に怪物だ。怪物が夢見てやがる。自分さえ良ければいいのか？ いざとなつたら人はどうなつてもいいのか？ もう90になるんだから死ぬつて…それじゃ堺の言つてることと同じだろ。クレンジングだかなんだか知らないけど…。

黒木 蟹又さん。

蟹又 わかりました。時間がないんですよね。

蟹又 が立ち上がる。

黒木 やつてくれますか、蟹又さん！

蟹又 ええ。怪物に話は通じないですから。

あずさ じゃあ、急ぎましょう。ここにいる全員、堺さんのナイフで手でも足でも切りつけるんです。

黒木 そして、床や壁に血を擦り付ける。そしたらトラックに乗って出発だ。

麻鈴 あの、自分で切るんですか？

黒木 大丈夫。トラックで白樺さんのウチに寄るから。一番に。

雪江
麻鈴
蟹又
黒木

ただ、動脈、静脈には気を付けてください。それはちよつと手に負えませんから。
ええ！？
私に任せてください。私、詳しいですから。
え？

蟹又は堺のナイフを持つ。

蟹又

大丈夫ですよ。息子が自傷行為するのを何度も経験してますから。どこがまずくて、どこなら大丈夫か。見極めつくようになっちゃいました。
すごいな…。

浜中

美保

蟹又

黒木

手のかかる、子供が親に、スキルつけ。
じゃ、いきますよ。
蟹又さん！

蟹又はそれぞれの腕をどんどん切りつけていく。
悲鳴とうめき声。

蟹又

さ、擦り付けて。早く！

一同、腕を床や壁に擦り付け始める。

蟹又

何やってるんですか！ そんなんじゃ殺人現場にならないですよ！

一同、転げまわったりしながら必死に擦り付ける。
蟹又が笑い出す。

蟹又

堺くん、見てる？

清人

え？

きみ、こういう連中を殺そうとしてたんだよ。金のために、自分だけのために必死になって、ほら！ 堺くん、醜い怪物だよ、こいつら。

蟹又

蟹又の高笑い。

一同が動きを止める。

その瞬間、蟹又が叫び声を上げ、自分の腹にナイフを刺す。
清人が叫び声を上げる。

蟹又

ああ、こりや深く入ったなあ。皆さん、さ、行きましょう。

蟹又はナイフを捨てる。

呆然とする一同。

蟹又 ほうら！ 時間がないんでしょ！？ トラックに乗りましょう！
黒木 蟹又さん…。
蟹又 ええ、私、死ぬかもしれないですね。これじゃ、白樺さんの手に負えないですもんね。
黒木 何やってんだ、あんた！
蟹又 …課長、私のことは任せますよ。捨てるなりなんなりしてください。それとも、病院に連れて行ってくれますか？

蟹又は倒れこむ。

黒木 蟹又さん！ 浜中さん、手を！
浜中 はい。

二人で蟹又を起こそうとする。

蟹又 (起こされながら) 堺くん！ 堺くん！
清人 は、はい？

蟹又 私たちが見つかるまでは、絶対口を割らないでね。

清人 …わかってます。

蟹又 よし、じゃあ賭けよう。きみと私で。

清人 な、何をですか！？

蟹又 怪物たちが夢から覚めるかどうか。

清人 蟹又さん…。

蟹又 このまま私が死んだら、きみの勝ちだ。(うめき声)

清人 蟹又さん！

黒木 行くぞ。

浜中 はい。

清人 あ、あの、どうするんですか？ このままじゃ蟹又さん…。

黒木 …任せろ。

一同は蟹又を連れて出ていく。

一人残された清人がナイフを拾い上げ、その姿がシルエットになる。

清人 黙秘します。おれ、ヒーローですから。

終わり。